中標津町学校施設長寿命化計画

令和３年２月

中標津町教育委員会

中標津町学校施設長寿命化計画

＜　目　次　＞

序　章　計画策定の背景と目的---------- 1

第１章　中標津町の学校施設を取り巻く状況
　１　中標津町の概要---------- 2
　２　人口・世帯数の動向---------- 3
　３　上位・関連計画の状況---------- 6

第２章　学校施設の実態
　１　学校施設の運営状況・活用状況等の実態---------- 12
　２　児童生徒数および学級数の変化---------- 13
　３　学校施設の保有量---------- 17
　４　施設関連経費の推移 ---------- 19
　５　学校施設の劣化状況の実態---------- 21

第３章　学校施設整備の基本的な方針
　１　学校施設を取り巻く状況の整理---------- 41
　２　学校施設のめざすべき姿---------- 43
　３　学校施設整備の基本的な方針---------- 44
　４　改修等の基本的な方針---------- 45
　５　基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等------- 48

第４章　長寿命化の実施計画
　１　改修等の優先順位づけと実施計画---------- 50
　２　長寿命化の継続的運用方針---------- 55

資料　中標津町学校施設長寿命化計画・長期管理モデルケース------ 56

序　章　計画策定の背景と目的

１　業務目的

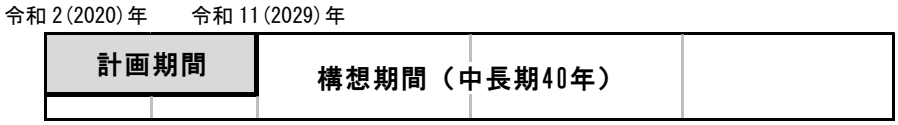
本業務は、中標津町立の義務教育諸学校・高等学校・幼稚園・給食センターについて、建物及び付随する設備の老朽化や不具合等を改善していくために施設全体の実態を把握し、子ども達が安全安心に学校施設を利用できるよう、老朽改修、機能向上、環境性能向上などを含めた長寿命化計画を策定します。

学校施設長寿命化計画では､総合的･長期的な観点で整備･維持管理の適正化を図るとともに、財政負担の軽減・平準化などの検討を行います。

また、これからの学校に求められる ICT（情報通信技術）教育への対応、バリアフリー化、省エネルギー化、防災機能について検討し、子ども達が良い学習環境で学校生活ができるよう、施設整備の基本方針を策定します。

２　計画期間

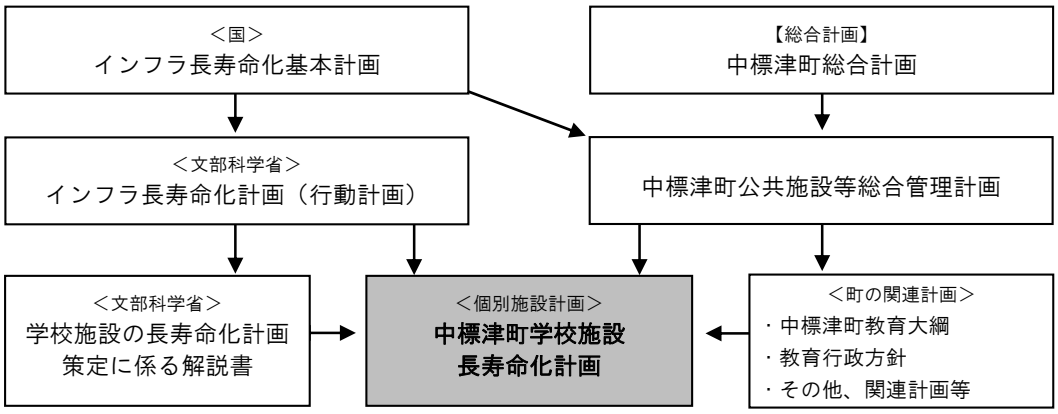
本計画は長期的な維持管理の視点により、構想期間を 40 年、計画期間を令和 3（2021）年度から令和 12（2030）年度までの 10 年間とします。



３　計画の位置づけ

本計画は、総合計画をはじめとする上位計画や関連計画と整合を図りながら策定します。

図表　計画の位置づけ



第１章　中標津町の学校施設を取り巻く状況

１　中標津町の概要

（１）位置・面積

中標津町は、北海道の東部、根室管内の中部に位置し、町域は東西約42km、南北約27kmに及びます。面積は、684.87㎢。北部は千島火山帯につながる丘陵地で、南側に向かって緩やかに傾斜し、平坦な根釧原野が広がっています。内陸性の気候で、夏の平均気温は20℃前後、冬の平均気温はマイナス10℃前後。積雪は、道内でも少ない方です。

中標津町の位置・地勢

＜位置＞

◆東経　144 度 58 分 18 秒

◆北緯　43 度 33 分 17 秒

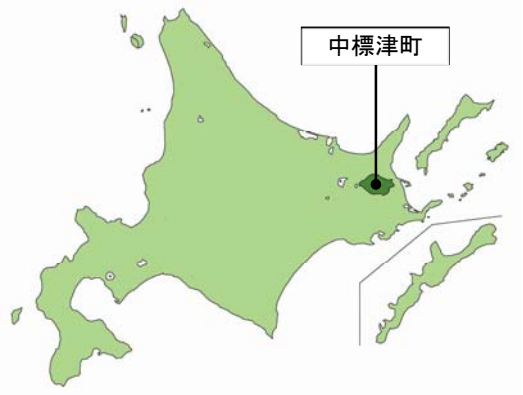
＜地勢＞

◆総面積　684.87km^2

◆東西方向　約 42km

◆南北方向　約 27km

資料：令和 2 年度中標津の概要より



（２）対象施設

本計画の対象施設は、町立の義務教育諸学校、高等学校、幼稚園、給食センターの計 9 施設とします。

図表　計画の対象施設

対象施設		所在
小学校	１．中標津小学校	中標津町西 9 条北 1 丁目 2 番地
	２．中標津東小学校	中標津町東 7 条南 7 丁目 15 番地
	３．丸山小学校	中標津町丸山 2 丁目 4 番地
中学校	４．中標津中学校	中標津町丸山 2 丁目 1 番地
	５．広陵中学校	中標津町東 10 条南 7 丁目 1 番地
義務教育学校	６．計根別学園	中標津町計根別本通東 8 丁目 1 番地 1
高等学校	７．北海道中標津農業高等学校	中標津町計根別南 2 条西 1 丁目 1 番地 1
幼稚園	８．計根別幼稚園	中標津町計根別北 2 条西 2 丁目 1 番地 1
他	９．中標津町学校給食センター	中標津町丸山 1 丁目 2 番地

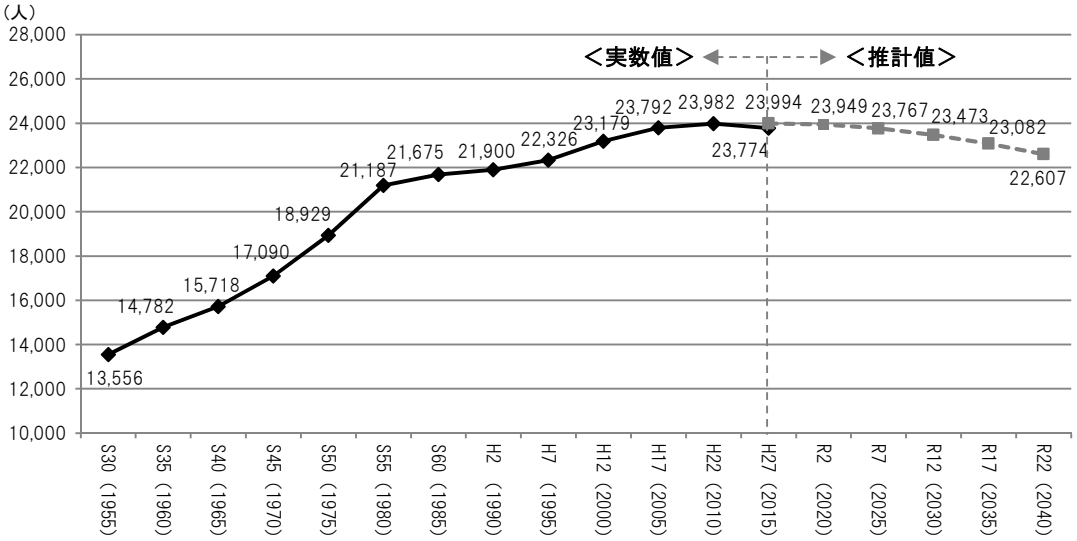
２　人口・世帯数の動向

（１）人口・世帯数

国勢調査による中標津町の人口は、これまで上昇傾向を継続し、平成 22（2010）年に 23,982 人となりましたが、以降は微減が続き平成 27（2015）年に 23,774 人となっています。

なお、町の独自による将来人口推計では、10 年後の令和 12（2030）年には 23,473 人程度、令和 22（2040）年には 22,607 人程度と推計しています。

図表　人口の推移（実数値と推計値）



※人口（実数値）---各年国勢調査による

※人口（推計値）---まちづくり町民会議資料（町独自推計：令和２年１月）

図表　中標津町の人口の推移

	平成7年（1995）	平成12年（2000）	平成17年（2005）	平成22年（2010）	平成27年（2015）
北海道	5,692,321 ―	5,683,062 -0.2%	5,627,737 -1.0%	5,506,419 -2.2%	5,381,733 -2.3%
根室管内	54,433 ―	53,343 -2.0%	52,855 -0.9%	51,368 -2.9%	49,704 -3.3%
中標津町	22,326 ―	23,179 3.7%	23,792 2.6%	23,982 0.8%	23,774 -0.9%

資料　各年国勢調査（※上段：実数、下段：前回調査年度比）

図表　中標津町の世帯数の推移

	平成7年（1995）	平成12年（2000）	平成17年（2005）	平成22年（2010）	平成27年（2015）
北海道	2,187,000 ―	2,306,419 5.2%	2,368,892 2.6%	2,424,314 2.3%	2,444,810 0.8%
根室管内	18,595 ―	19,223 3.3%	20,053 4.1%	20,358 1.5%	20,663 1.5%
中標津町	8,276 ―	9,136 9.4%	9,744 6.2%	10,084 3.4%	10,437 3.4%

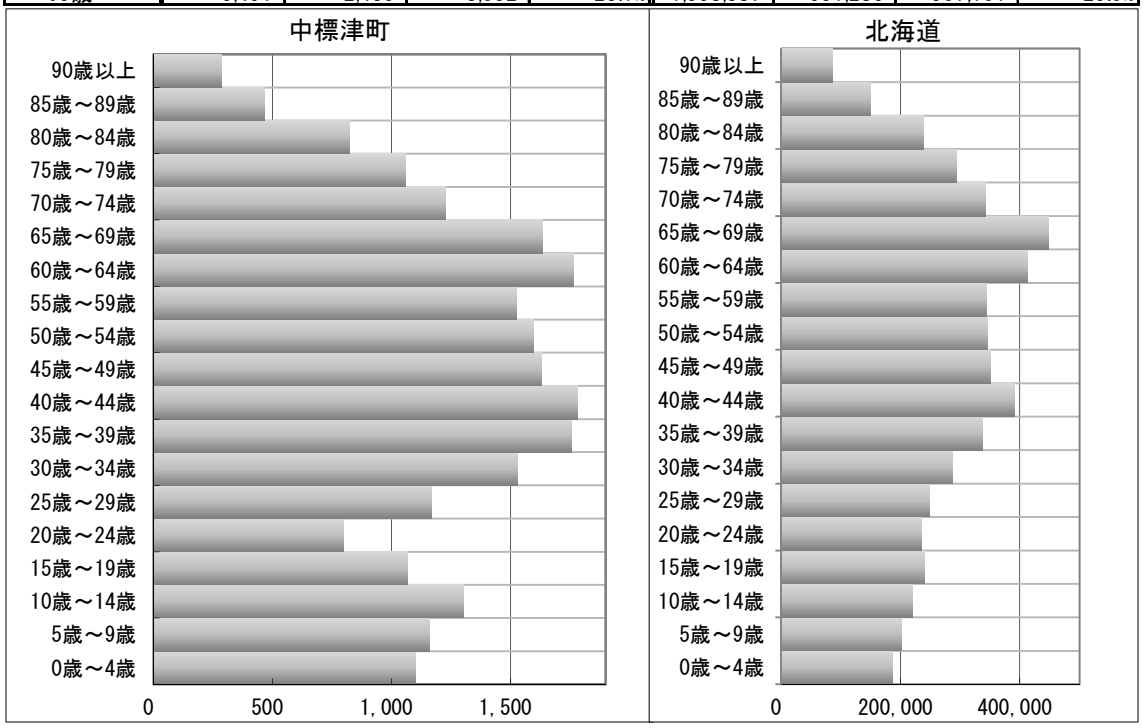
資料　各年国勢調査（※上段：実数、下段：前回調査年度比）

（２） 年齢別人口

平成 27（2015）年の 65 歳以上の人口は 5,491 人であり全体の 23.1%を占めています。北海道全体 29.0%との比較では高齢者の割合を下回っています。一方、15 歳未満人口の割合は 15.0%で、北海道全体を上回っています。年齢構造を見ると全道が 65～69 歳人口が最も多いのに対し、中標津町では 40～44 歳人口が最も多い層であることが特徴であり、14 歳以下の幼児、年少人口割合の高さと合わせ、子育て世帯の居住が多いことが町の人口特性となっています。

図表　年齢別人口／5 歳階級（国勢調査）

区分	中標津町　平成27（2015）年				北海道　平成27（2015）年			
	総　数	男	女	構成比	総　数	男	女	構成比
総数	23,774	11,628	12,146	100.0%	5,381,733	2,537,089	2,844,644	100.0%
0歳～4歳	1,100	529	571	4.6%	186,010	95,022	90,988	3.5%
5歳～9歳	1,160	622	538	4.9%	202,269	103,549	98,720	3.8%
10歳～14歳	1,303	651	652	5.5%	220,017	111,816	108,201	4.1%
15歳～19歳	1,069	533	536	4.5%	239,098	123,196	115,902	4.4%
20歳～24歳	799	423	376	3.4%	234,274	117,965	116,309	4.4%
25歳～29歳	1,167	575	592	4.9%	247,587	123,076	124,511	4.6%
30歳～34歳	1,529	788	741	6.4%	287,674	141,876	145,798	5.3%
35歳～39歳	1,758	901	857	7.4%	337,369	166,514	170,855	6.3%
40歳～44歳	1,783	929	854	7.5%	391,243	193,093	198,150	7.3%
45歳～49歳	1,633	817	816	6.9%	350,794	169,252	181,542	6.5%
50歳～54歳	1,596	813	783	6.7%	345,836	165,634	180,202	6.4%
55歳～59歳	1,525	740	785	6.4%	343,884	165,353	178,531	6.4%
60歳～64歳	1,766	811	955	7.4%	413,045	195,920	217,125	7.7%
65歳～69歳	1,636	814	822	6.9%	448,646	207,461	241,185	8.3%
70歳～74歳	1,226	535	691	5.2%	341,850	151,031	190,819	6.4%
75歳～79歳	1,060	462	598	4.5%	293,306	124,921	168,385	5.5%
80歳～84歳	821	370	451	3.5%	238,663	95,987	142,676	4.4%
85歳～89歳	464	185	279	2.0%	149,960	51,414	98,546	2.8%
90歳以上	284	73	211	1.2%	85,962	20,472	65,490	1.6%
不詳	95	57	38	0.4%	24,246	13,537	10,709	0.5%
0歳～14歳	3,563	1,802	1,761	15.0%	608,296	310,387	297,909	11.3%
15歳～64歳	14,625	7,330	7,295	61.5%	3,190,804	1,561,879	1,628,925	59.3%
65歳～	5,491	2,439	3,052	23.1%	1,558,387	651,286	907,101	29.0%



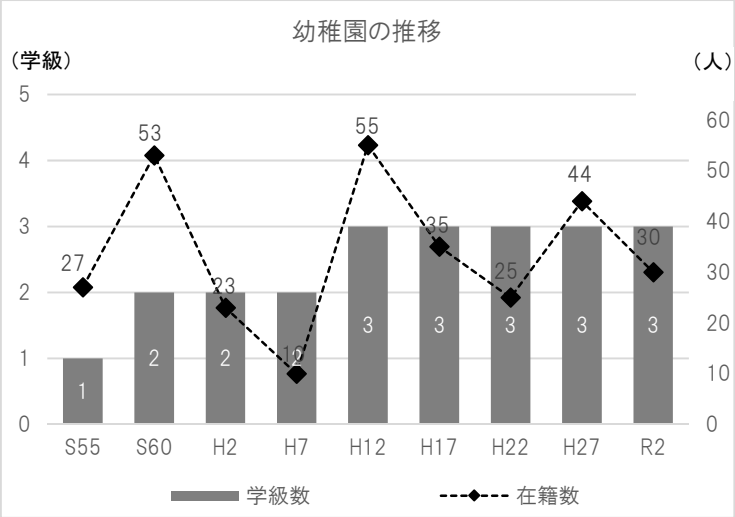
※各区分の構成比の合計は、端数処理の関係で 100%とならない場合があります。

（３） 幼稚園の推移

計根別幼稚園の在籍数は、増減を繰り返し令和 2 年は 30 名となっています。

また、学級数は近年 3 学級で推移しています。

図表　幼稚園の推移

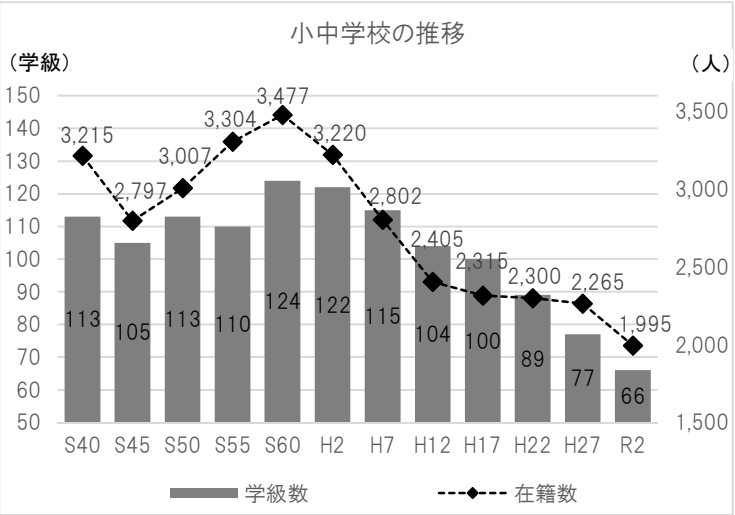


（４） 小中学校の推移

小中学校の 5 年毎の児童生徒数の推移は、昭和 60（1985）年の 3,477 人以降減少に転じ、令和 2（2020）年には 1,995 人となっています。

学校数も昭和 60 年の 124 学級以降減少に転じ、現在では 66 学級となっています。

図表　小中学校の推移

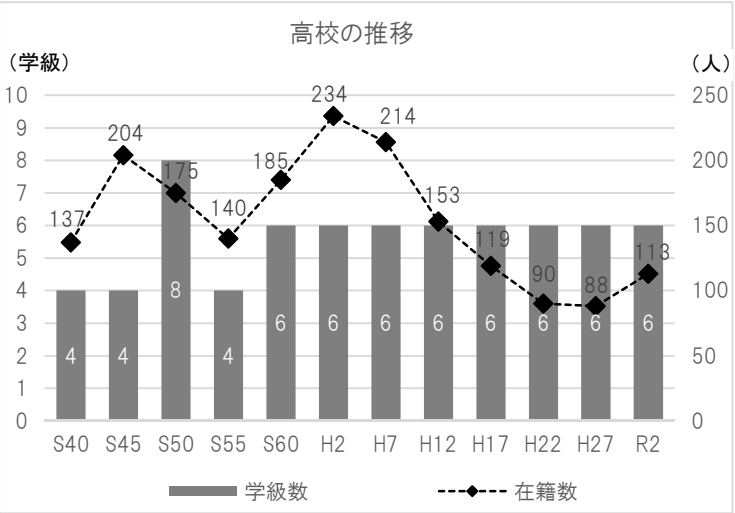


（５） 高校の推移

中標津農業高等学校の在籍数は平成 2（1990）年の 234 人をピークに減少に転じ、平成 27（2015）年には 88 名となりました、近年では若干増加に転じ令和 2（2020）年は 113 人となっています。

また、学級数は近年 6 学級で推移しています。

図表　高校の推移



３　上位・関連計画の状況

（１）インフラ長寿命化基本計画

［平成 25（2013）年 11 月　インフラ老朽化対策の推進に関する関係省庁連絡会議］

高度成長期以降に集中的に整備されたインフラの加速度的な老朽化に向け、戦略的な維持・管理・更新等を推進することを目的に策定されています。

図表　インフラ長寿命化基本計画の概要

＜計画の目的＞

◇個別施設毎の長寿命化計画を核として、メンテナンスサイクルを構築
◇メンテナンスサイクルの実行や体制の構築等により、トータルコストを縮減・平準化
◇産学官の連携により、新技術を開発・メンテナンス産業を育成

＜計画の概要＞

[1.目指すべき姿]

◆安全で強靭なインフラシステムの構築
◆総合的・一体的なインフラマネジメントの実現
◆メンテナンス産業によるインフラビジネスの競争力強化

[2.基本的な考え方]

◆インフラ機能の確実かつ効率的な確保
➢メンテナンスサイクルの構築や多段階の対策により、安全・安心を確保
➢予防保全型維持管理の導入、必要性の低い施設の統廃合等によりトータルコストを縮減・平準化し、インフラ投資の持続可能性を確保

◆メンテナンス産業の育成
➢産学官連携の下、新技術の開発・積極公開により民間開発を活性化させ、世界の最先端へ誘導

◆多様な施策・主体との連携
➢防災・減災対策等との連携により、維持管理・更新を効率化
➢政府・産学界・地域社会の相互連携を強化し、限られた予算や人材で安全性や利便性を維持・向上

[3.計画の策定内容]

◆インフラ長寿命化計画（行動計画）
➢計画的な点検や修繕等の取組を実施する必要性が認められる全てのインフラでメンテナンスサイクルを構築・継続・発展させるための取組の方針
（対象施設の現状と課題／維持管理・更新コストの見通し／必要施策に係る取組の方向性　等）

◆個別施設毎の長寿命化計画（個別施設計画）
➢施設毎のメンテナンスサイクルの実施計画
（対策の優先順位の考え方／個別施設の状態等／対策内容と時期／対策費用　等）

＜必要施策の方向性＞

点検・診断	定期的な点検による劣化・損傷の程度や原因の把握　等
修繕・更新	優先順位に基づく効率的かつ効果的な修繕・更新の実施　等
基準類の整備	施設の特性を踏まえたマニュアル等の整備、新たな知見の反映　等
情報基盤の整備と活用	電子化された維持管理情報の収集・蓄積、予防的な対策等への利活用　等
新技術の開発・導入	ICT、センサー、ロボット、非破壊検査、補修・補強、新材料等に関する技術等の開発・積極的な活用　等
予算管理	新技術等の活用やインフラ機能の適正化による維持管理・更新コストの縮減、平準化　等
体制の構築	［国］技術等の支援体制の構築、資格・研修制度の充実 ［地方公共団体］維持管理・更新部門への人員の適正配置、国の支援制度等の積極的な活用 ［民間企業］入札契約制度の改善　等
法令等の整備	基準類の体系的な整備　等

（２）文部科学省インフラ長寿命化計画（行動計画）［平成 27（2015）年 3 月］

本計画は、国による基本計画に基づき、平成 26（2014）～令和 2（2020）年度を計画期間とし、文部科学省が所管又は管理する施設の長寿命化に向け、中期的な取組の方向性を明らかにすることを目的に策定されています。

図表　文部科学省インフラ長寿命化計画（行動計画）の概要

＜計画の範囲＞

◆対象施設：維持管理等に関する公財政支出があり、多数の国民を受け入れる施設
（国公立学校施設、公立社会教育施設、施設運営型独立行政法人、庁舎等）
◆計画期間：平成 26（2014）～令和 2（2020）年度

＜目指すべき姿＞

◆各設置者における「メンテナンスサイクル」（①定期的な点検・診断、②計画策定、③計画に基づく対策の実施）の構築
◆これまでの改築中心から長寿命化への転換による、中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減
◆行動計画・個別施設計画の策定を通じた予算の平準化

＜現状・課題＞

◆第 2 次ベビーブームに対応して整備された学校施設等について、今後、急速な老朽化と整備需要の急増が予想
◆建築基準法に基づく点検・診断の実施状況等について地域差が存在
◆児童生徒等の安全性の確保はもとより、教育研究活動の高度化・多様化やバリアフリー・省エネ等に対応した機能の向上も必要
◆厳しい財政状況等により対策が十分に行われていないおそれ

＜取組の方向性＞

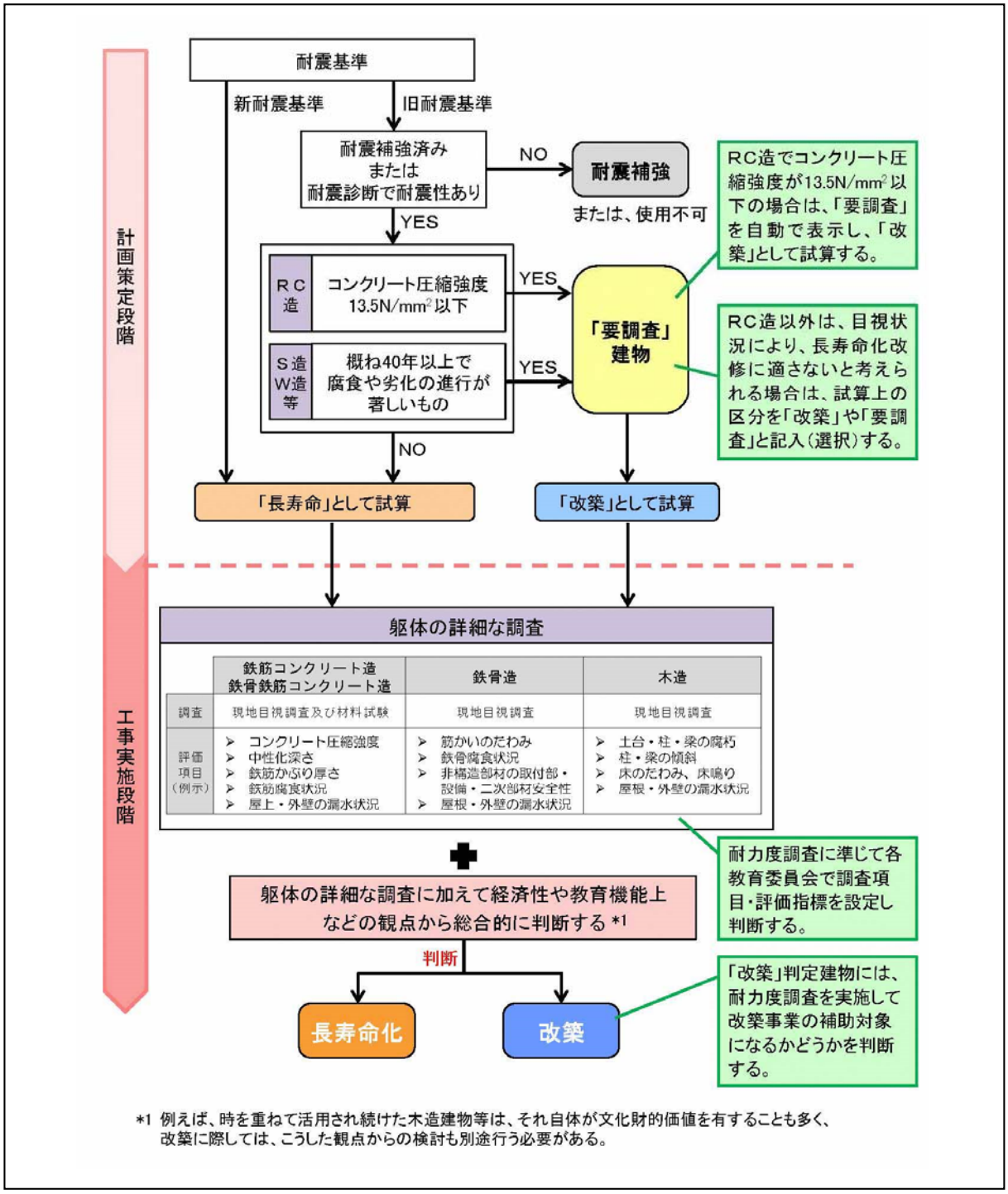
点検・診断の着実な実施	地域差のない点検の着実な実施を要請、点検実施の手引を作成・提供
個別施設計画の策定	個別施設計画策定の手引の作成・提供等により各設置者の取組を促進
対策の着実な実施	個別施設計画に基づく着実な取組を促進
予算管理	トータルコスト縮減・予算の平準化の促進、必要な予算の安定的な確保
指針・手引の策定	「点検・診断」「計画」「対策」の各段階に対応する指針・手引の整備・充実
体制の構築	体制構築の重要性・手段等に関する周知、先駆的事例の普及啓発
情報基盤の整備及び活用	施設に関する情報の蓄積・共有の有用性に関する普及啓発
新技術の開発・導入	非破壊診断技術・新材料に関する研究開発、導入段階に至った新技術の周知

（３）学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書［平成 29（2017）年 3 月　文部科学省］

本解説書は、文部科学省によるインフラ長寿命化計画（行動計画）に基づき、各地方公共団体において学校施設を対象とした長寿命化計画が早期に策定されるよう、計画に盛り込むべき事項や、それらを検討する上での留意事項等を示すものとして作成されています。

なお、本解説書では、計画策定のための建物情報を整理するにあたり、「①学校施設の全体把握」、「②老朽化状況の把握」、「③今後の維持・更新コストの把握」、「④直近の整備計画の策定」の 4 段階が示されています。

図表　長寿命化の判定フロー



（４）第６期中標津町総合発展計画［平成 23（2011）年３月］

本計画は、平成 23（2011）～令和２（2020）年度までの 10 年間を計画期間としており、将来像を「空とみどりの交流拠点・中標津」とし、学校教育等に関する主要施策は基本目標 2-1 で位置づけています。

＜将来像＞ 空とみどりの交流拠点・中標津 ～　あつまるまち　つながるまち　ひろがるまち　～	
＜基本目標＞ １　参画と協働で未来を築くまちづくり［まちづくり・行財政分野］ ２　健やかでやさしいまちづくり［健康・福祉分野］ ３　力みなぎる産業のまちづくり［経済・産業分野］ ４　利便性のある調和のとれたまちづくり［基盤分野］ ５　安全・安心で快適なまちづくり［生活環境分野］ ６　人が輝き歴史と文化を育むまちづくり［教育・文化分野］	
＜関連施策＞ 6-1 **学校教育の充実**	・次世代を担う子どもたちが、社会を形成する上で必要な基礎・基本を身につけ成長していけるよう、「生きる力」を育み、人としての幸福感を実感できる教育を推進します。また、農業高校においては、この地域の農業を中心とした関連産業への発展に貢献する人材育成を推進します。

（５）教育行政方針［令和２（2020）年３月］

中標津町教育大綱の基本理念である「人が輝き歴史と文化を育むまちづくり」を念頭に、時代を担う子どもたちが希望を持って未来に向かえるよう、本町教育の充実・発展に向けた教育行政の方針と主要な施策をまとめています。

＜中標津町教育大綱・基本理念＞ 人が輝き歴史と文化を育むまちづくり	
＜学校教育の充実＞ (1)　豊かな心と健やかな体の育成 (2)　社会で活きる確かな学力の育成 (3)　信頼される学校づくりの推進 (4)　教育環境の充実 (5)　中標津農業高等学校の教育の充実	
(4)教育環境の充実	・子どもたちの学ぶ意欲を高め、確かな成長を促すためには、教育環境の充実が重要です。このため、老朽化した広陵中学校の長寿命化改良事業に着手し、今年度は、改修工事に向けた実施設計を行います。また、引き続き老朽化した教員住宅の解体を行います。教育の情報化の推進については、小学校において教育用コンピューター機器の更新を行うとともに、指導者用タブレット端末の導入を進め、学習指導要領に対応した教育の充実を目指します。

（６）中標津町公共施設等総合管理計画［平成 29（2017）年 3 月］

本計画は、平成 28（2016）年度から令和 8（2026）年まので 11 年間を計画期間とし、公共施設等の全体像を明らかにし、様々な社会情勢を踏まえ、長期的な視点を持って、公共施設等の総合的かつ計画的な管理を推進することを目的に策定しています。

■公共施設の管理に関する基本的な考え方（抜粋）	
(1)点検･診断等の実施方針	◆今後も継続的な運営(利用)が確実に見込まれている施設については、法定点検のほか、予防保全型維持管理の視点に立ち必要に応じ任意の調査、点検を効果的に実施します。そのほか、点検未実施のものも含めた全対象施設において点検･診断等を実施し、その結果に基づき、必要な対策を適切な時期に、着実かつ効率的･効果的に実施します。
(2)維持管理･修繕･更新等の実施方針	◆予防保全型維持管理については、公共施設等の利用率、役割、老朽化等を総合的に勘案し、維持管理･修繕･更新等を実施します。なお、実施にあたっては、既存施設との集約化や小規模化及び設備等の省エネ化等を十分検討し、初期投資及び施設運営に関するコストを総合的に検証したうえでトータルコストに配慮することとします。
(3)安全確保の実施方針	◆これまでは劣化や損傷が起きてからの対応が中心でした。今後は、外壁の落下、防災設備の故障など利用者の安全の確保に直結する場合は早急に対策を行い、施設を安全な状態で維持し、サービスを継続的に提供します。
(4)長寿命化の実施方針	◆点検･診断等の実施方針のとおり早期に健全度を把握するとともに、予防保全型維持管理を行い、今後も継続的な運用(利用)をする必要がある施設については、計画的な施設の長寿命化を推進します。 ◆また、個別の長寿命化計画等を策定する場合は、中標津町公共施設等総合管理計画における方針との整合を図るものとします。
(5)統合や廃止の推進方針	◆公共施設等の利用状況や老朽化等を踏まえ、統合や廃止(取り壊し)の方向性を検討します。方向性の検討にあたっては、単に施設の必要性の有無だけで判断するのではなく、施設で行われている事業(サービス)の必要性等とあわせて検討を行う必要があります。
(6)建築物の耐震化に関する基本的な考え方	◆多くの公共施設等は災害時における防災拠点や避難所などとして重要な役割を担っています。このことから、大地震が発生した場合の建築物の倒壊などの被害及びこれに起因する生命･財産の被害を未然に防止するため、既存建築物の耐震診断及び耐震改修を促進します。

■施設類型ごとの管理に関する基本方針	
学校教育系施設	◆町内の小中学校は統廃合により、現在は小学校5 校、中学校2 校、義務教育学校1 校となったところですが、地域の実情や将来の人口減少を見据えた配置計画の策定が必要となります。 ◆施設の中で学校は大規模な床面積を有しますが、児童生徒数は減少していくことから、学校の再配置を検討する際には小学校、中学校の同一建物での更新などを検討します。また、学校教育活動の充実や地域と学校の連携強化に資するよう、社会教育施設や保健福祉施設との複合化・共用化による整備等について、児童生徒数の推移、地域特性に考慮しつつ、余裕教室の有効活用などの検討を行います。

（７）その他関連事項等

［中標津町洪水ハザードマップ］

中標津町洪水ハザードマップでは、指定避難所にも位置づけられている丸山小学校（校舎・体育館）が急傾斜地崩壊危険箇所の区域内に指定されています。また、浸水想定区域には学校給食センターが含まれています。

急傾斜地崩壊危険箇所［Ⅰ-9-165-2886］丸山２丁目

［避難所指定学校施設］

区分				避難施設名	住　所
大雨	雪	土砂	地震		
×	×	×	○	中標津中学校*1*2	丸山２丁目１番地
×	×	×	○	丸山小学校*1*2	丸山２丁目４番地１
○	×	○	○	中標津東小学校	東７条南７丁目 15 番地
○	×	○	○	広陵中学校	東 10 条南７丁目１番地
○	×	○	○	中標津小学校	西９条北１丁目２番地
○	×	○	○	計根別学園	計根別本通東８丁目１番地２

※1：大雨の場合は、土砂災害の恐れがあるため、利用できない
※2：大雨の場合は、浸水する恐れがあるため、利用できない

第２章　学校施設の実態

１　学校施設の運営状況・活用状況等の実態

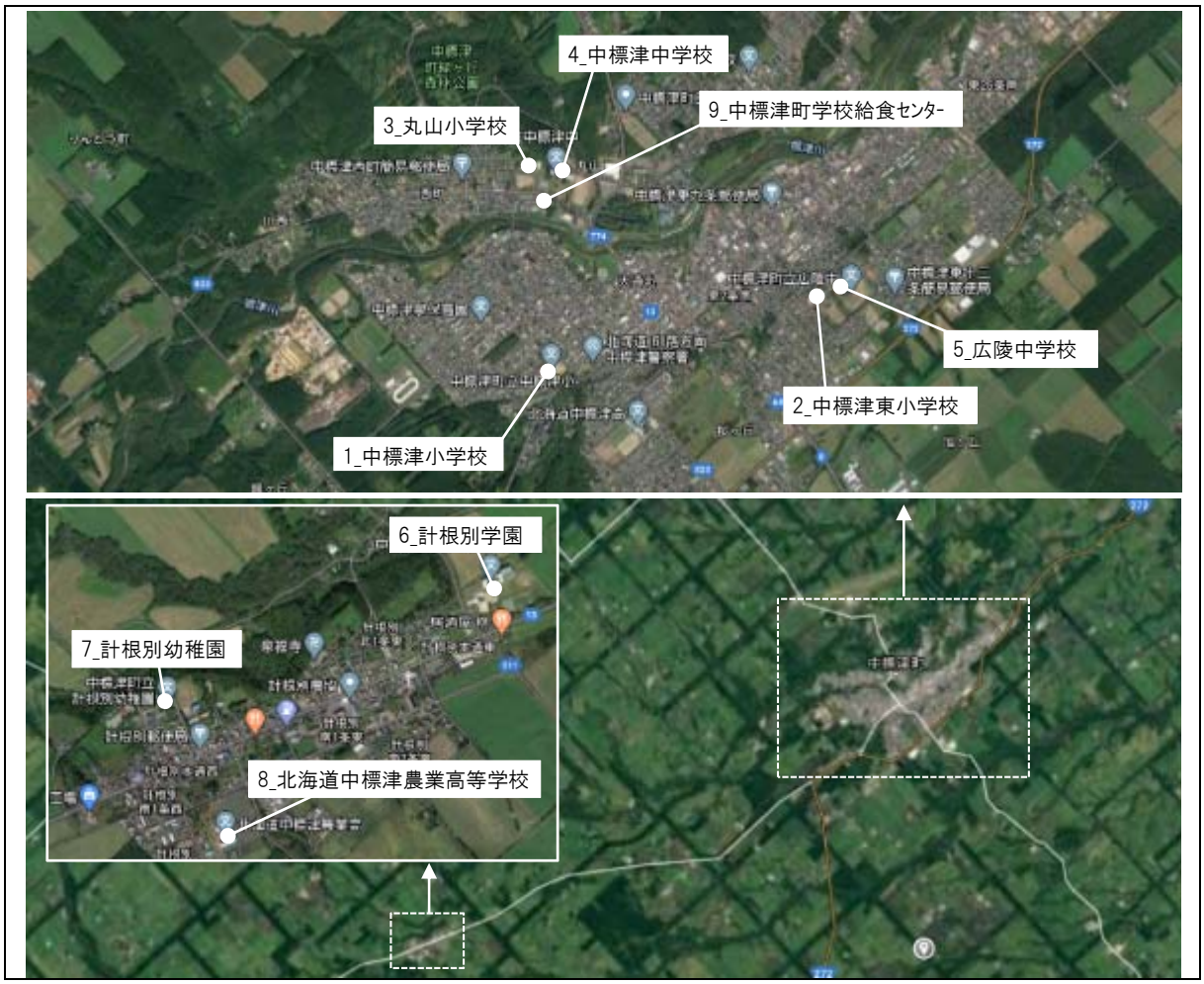
（１）対象施設一覧

本計画の対象施設は、町立の義務教育諸学校、高等学校、幼稚園、給食センターの計９施設とします。

図表　対象施設一覧（令和２年５月現在）

対象施設		建築年月		延床面積
		校舎等	体育館	
小学校	１．中標津小学校	H1.10（1989）	H3.3（1991）	7,429 ㎡
	２．中標津東小学校	H22.1（2010）	H20.3（2008）	6,979 ㎡
	３．丸山小学校	S57.5（1982）	S57.11（1982）	4,967 ㎡
中学校	４．中標津中学校	H15.10（2003）	H17.3（2005）	6,820 ㎡
	５．広陵中学校	S53.5（1978）	S53.9（1978）	4,932 ㎡
義務教育学園	６．計根別学園	H26.10（2014）	H27.10（2014）	5,471 ㎡
高等学校	８．北海道中標津農業高等学校	H12.10（2000）	R2.10（2020）	4,370 ㎡
幼稚園	７．計根別幼稚園	S56.11（1981）	－	416 ㎡
他	９．中標津町学校給食センター	S58.12（1983）	－	610 ㎡

図表　対象施設位置図



２　児童生徒数および学級数の変化

（１）児童生徒数および学級数の状況

児童生徒数及び学級数は令和２（2020）年５月１日現在で小学校 1,289 人 73 学級、中学校 706 人 36 学級、高校 113 人３学級、幼稚園 30 人３学級となっています。

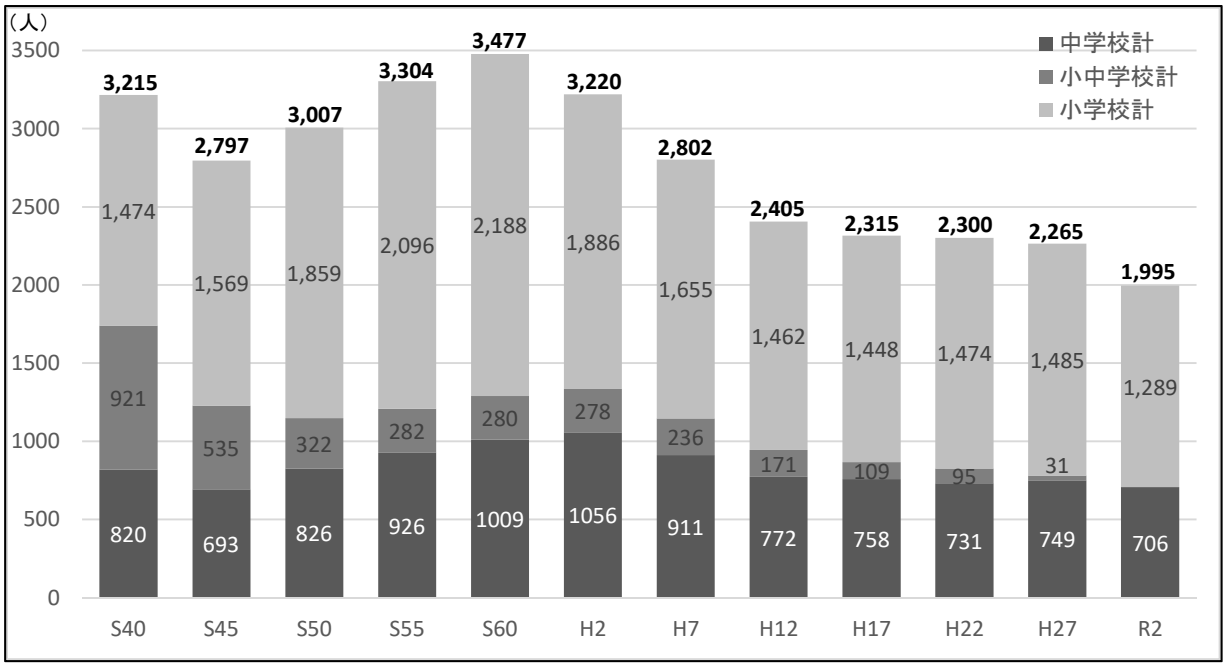
図表３　児童・生徒数および学級数の現状（令和２（2020）年５月１日現在）

学校名等				普通学級							特別支援学級	合計
				1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計		
小学校	1 中標津小学校		児童数	62	45	56	51	47	59	320	48	368
			学級数	2	2	2	2	2	2	12	9	21
	2 中標津東小学校		児童数	74	87	81	68	67	93	470	66	536
			学級数	3	3	3	2	2	3	16	11	27
	3 丸山小学校		児童数	37	52	43	54	48	37	271	24	295
			学級数	2	2	2	2	2	1	11	4	15
中学校	4 中標津中学校		生徒数	128	118	118	－	－	－	364	22	386
			学級数	4	3	3	－	－	－	10	6	16
	5 広陵中学校		生徒数	72	88	92	－	－	－	252	24	276
			学級数	2	3	3	－	－	－	8	6	14
義務教育学校	6 計根別学園	前期	生徒数	9	14	13	12	11	15	74	16	90
			学級数	1	1	1	1	1	1	6	4	10
		後期	生徒数	12	12	12	－	－	－	36	8	44
			学級数	1	1	1	－	－	－	3	3	6
小学校計			生徒数	182	198	193	185	173	204	1,135	154	1,289
			学級数	8	8	8	7	7	7	45	28	73
中学校計			生徒数	212	218	222	－	－	－	652	54	706
			学級数	7	7	7	－	－	－	21	15	36
高校	7 中標津農業高等学校		生徒数	44	43	26	－	－	－	113	－	113
			学級数	1	1	1	－	－	－	3	－	3
幼稚園	8 計根別幼稚園		児童数	3歳児 12	4歳児 5	5歳児 13	－	－	－	30	－	30
			学級数	1	1	1	－	－	－	3	－	3
合　計			児童生徒数	450	464	454	185	173	204	1,930	208	2,138
			学級数	17	17	17	7	7	7	72	43	115

（２）学校数および児童生徒数の推移

本町の小中学校は昭和 45 年に 17 校を数えましたが、その後統廃合により現在は 6 校となっています。また、5 年毎の児童生徒数の推移は、昭和 60（1985）年の 3,477 人以降減少に転じ、令和 2（2020）年には 1,995 人となっています。

図表　児童生徒数の推移と将来推計（令和 2 年 5 月現在）



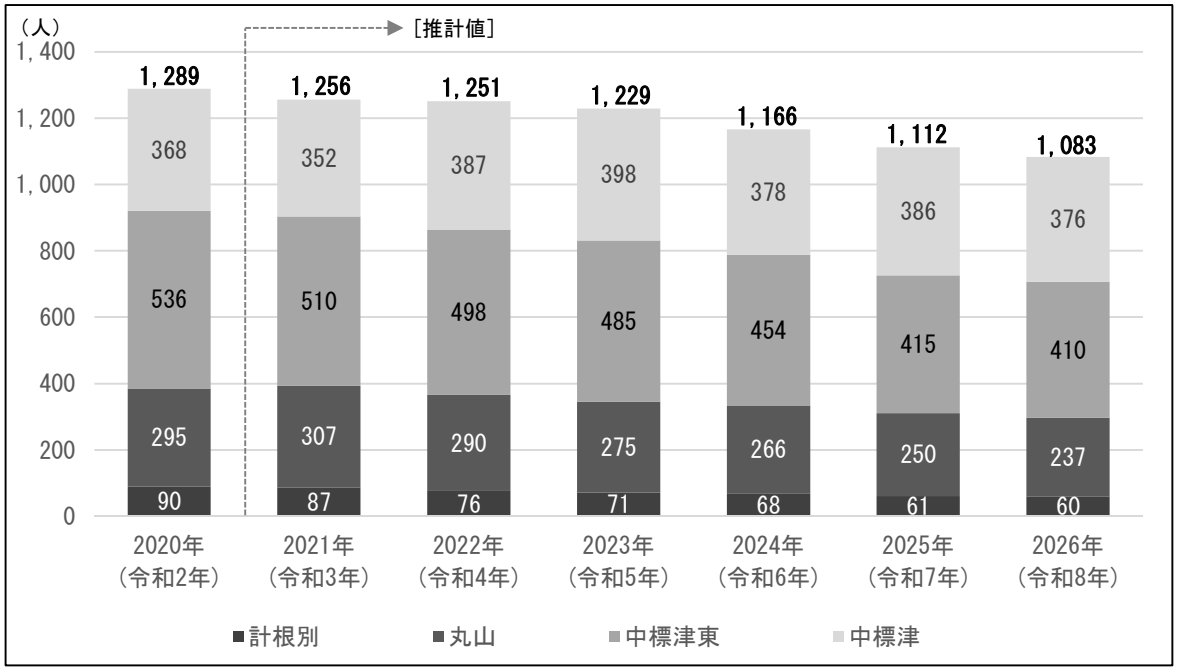
		S40	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27	R2	備考
小学校	中標津	1067	781	951	1052	859	744	638	495	490	451	447	368	－
	中標津東	－	480	663	851	726	563	567	520	533	580	587	536	S44年開校
	丸山	－	－	－	－	435	445	352	375	335	359	370	295	S57年開校
	計根別	275	201	190	183	149	121	80	59	84	84	81	90	H27年中学校と統合
	豊岡	26	19	13	－	－	－	－	－	－	－	－	－	S53年統廃合
	協和	25	35	18	－	－	－	－	－	－	－	－	－	S52年統廃合
	上標津	31	26	13	－	－	－	－	－	－	－	－	－	S51年統廃合
	第二俣落	27	7	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	S47年統廃合
	若竹	23	20	11	10	19	13	18	13	6	－	－	－	H18年統廃合
	小学校計	1,474	1,569	1,859	2,096	2,188	1,886	1,655	1,462	1,448	1,474	1,485	1,289	
小中学校	俵橋	83	36	26	52	43	23	23	20	16	26	19	－	R2年統廃合
	俣落	138	67	43	32	48	78	61	34	18	11	－	－	H25年統廃合
	開陽	104	56	35	31	29	39	28	15	14	9	－	－	H26年統廃合
	西竹	178	118	64	41	37	51	49	34	15	12	－	－	H27年統廃合
	養老牛	132	91	70	49	44	41	41	37	19	13	－	－	H24年統廃合
	当幌	105	40	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	S47年統廃合
	武佐	181	127	84	77	79	46	34	31	27	24	12	－	H29年統廃合
	小中学校計	921	535	322	282	280	278	236	171	109	95	31	0	
中学校	中標津	624	563	707	467	499	526	449	382	430	419	413	386	－
	広陵	－	－	－	363	423	451	389	354	270	244	281	276	S53年開校
	計根別	196	130	119	96	87	79	73	36	58	68	55	44	H27年小学校と統合
	中学校計	820	693	826	926	1009	1056	911	772	758	731	749	706	

（３）学校区ごとの児童生徒数の将来推計

本計画策定から６年後にあたる令和８（2026）年の小学児童推計数は合計で 1,083 人であり、令和２（2020）年と比較すると 16.0%の減少となります。また、令和７年以降、丸山小学校では過半の学年で普通学級が１学級編成となります。

中学校の生徒数は 573 人であり、16.3%の減少となります。

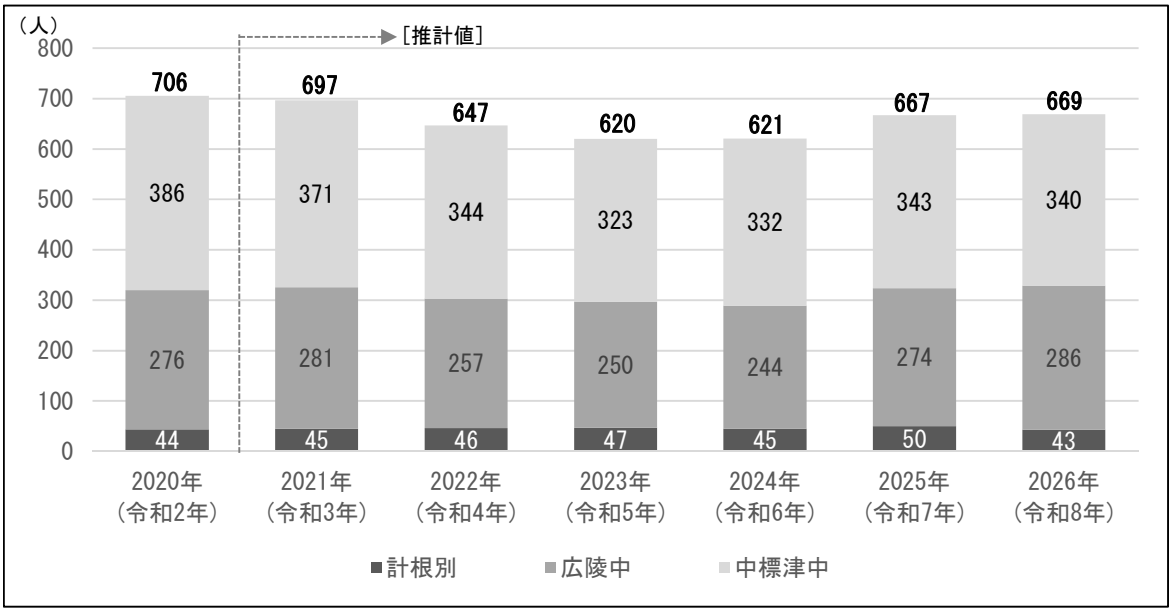
図表　小学校児童数の学校区別推計（令和２年５月時点）



学校名	学年	実数	推計数					
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
中標津小学校	1年	70 (62)	50 (44)	84 (74)	66 (58)	51 (45)	65 (57)	60 (53)
	2年	57 (45)	70 (62)	50 (44)	84 (74)	66 (58)	51 (45)	65 (57)
	3年	71 (56)	57 (45)	70 (62)	50 (44)	84 (74)	66 (58)	51 (45)
	4年	55 (57)	71 (56)	57 (45)	70 (62)	50 (44)	84 (74)	66 (58)
	5年	49 (47)	55 (57)	71 (56)	57 (45)	70 (62)	50 (44)	84 (74)
	6年	66 (59)	49 (47)	55 (57)	71 (56)	57 (45)	70 (62)	50 (44)
	計	368 (326)	352 (311)	387 (338)	398 (339)	378 (328)	386 (340)	376 (331)
中標津東小学校	1年	86 (74)	74 (65)	64 (56)	61 (54)	63 (55)	67 (59)	81 (71)
	2年	106 (87)	86 (74)	74 (65)	64 (56)	61 (54)	63 (55)	67 (59)
	3年	94 (81)	106 (87)	86 (74)	74 (65)	64 (56)	61 (54)	63 (55)
	4年	74 (68)	94 (81)	106 (87)	86 (74)	74 (65)	64 (56)	61 (54)
	5年	76 (67)	74 (68)	94 (81)	106 (87)	86 (74)	74 (65)	64 (56)
	6年	100 (93)	76 (67)	74 (68)	94 (81)	106 (87)	86 (74)	74 (65)
	計	536 (470)	510 (442)	498 (431)	485 (417)	454 (392)	415 (364)	410 (361)
丸山小学校	1年	42 (37)	53 (47)	35 (31)	45 (40)	36 (32)	39 (34)	29 (26)
	2年	55 (52)	42 (37)	53 (47)	35 (31)	45 (40)	36 (32)	39 (34)
	3年	45 (43)	55 (52)	42 (37)	53 (47)	35 (31)	45 (40)	36 (32)
	4年	60 (54)	45 (43)	55 (52)	42 (37)	53 (47)	35 (31)	45 (40)
	5年	52 (48)	60 (54)	45 (43)	55 (52)	42 (37)	53 (47)	35 (31)
	6年	41 (37)	52 (48)	60 (54)	45 (43)	55 (52)	42 (37)	53 (47)
	計	295 (271)	307 (281)	290 (263)	275 (249)	266 (238)	250 (220)	237 (209)
計根別学園（前期）	1年	9 (9)	13 (11)	4 (4)	11 (10)	11 (10)	13 (11)	8 (7)
	2年	20 (14)	9 (9)	13 (11)	4 (4)	11 (10)	11 (10)	13 (11)
	3年	14 (13)	20 (14)	9 (9)	13 (11)	4 (4)	11 (10)	11 (10)
	4年	16 (12)	14 (13)	20 (14)	9 (9)	13 (11)	4 (4)	11 (10)
	5年	15 (11)	16 (12)	14 (13)	20 (14)	9 (9)	13 (11)	4 (4)
	6年	16 (15)	15 (11)	16 (12)	14 (13)	20 (14)	9 (9)	13 (11)
	計	90 (74)	87 (70)	76 (63)	71 (61)	68 (57)	61 (55)	60 (53)

※（　）は普通学級児童数、（　）は児童数 35 名以下と推計される１学級編成（推計数は R2 実数の 88%で算出）

図表　中学校生徒数の学校区別推計（令和 2 年 5 月時点）



学校名	学年	実数	推計人数					
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
中標津中学校	1年	136	107	101	115	116	112	112
	2年	128	136	107	101	115	116	112
	3年	122	128	136	107	101	115	116
	計	386	371	344	323	332	343	340
広陵中学校	1年	81	100	76	74	94	106	86
	2年	100	81	100	76	74	94	106
	3年	95	100	81	100	76	74	94
	計	276	281	257	250	244	274	286
計根別学園（後期）	1年	15	16	15	16	14	20	9
	2年	14	15	16	15	16	14	20
	3年	15	14	15	16	15	16	14
	計	44	45	46	47	45	50	43

3　学校施設の保有量

（１）学校ごとの保有量の現状

本計画では学校施設等 9 施設 26 棟、延床面積約 4.37 万㎡を対象とします。

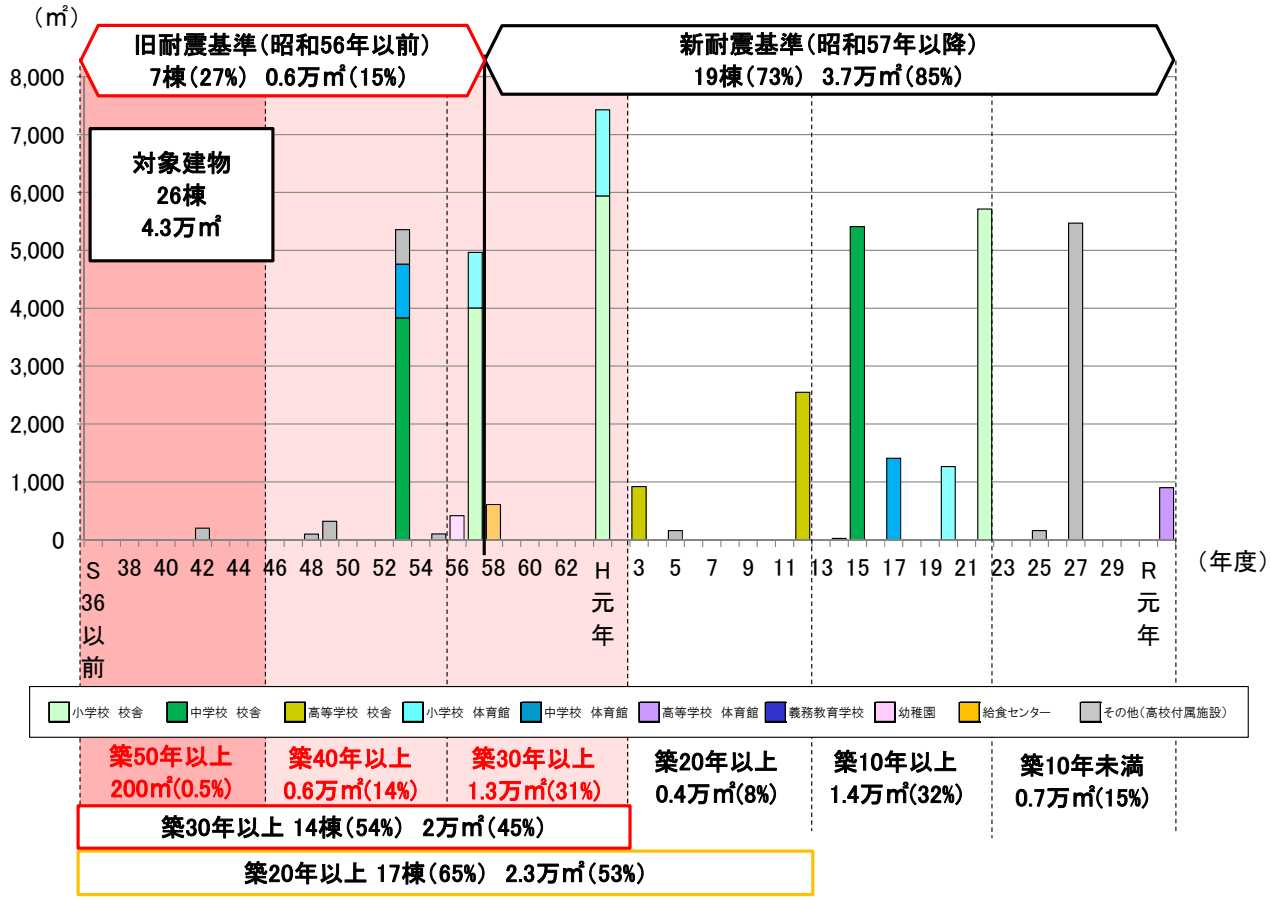
図表　建物別施設の状況（令和 2（2020）年 5 月末現在）

種別	施設名	建物名	棟番号	構造	階数	延床面積（㎡）		建築年月 和暦		耐震診断・補強 基準	診断年度	IS値	補強年度
小学校	1　中標津小学校	校舎1	030-1	RC	2	4,757	4,757	H1	10	新			
		校舎2	030-2	RC	2	1,098	1,182	H1	10	新			
			030-3	RC	1	84		H1	10	新			
		体育館	036-1	RC	2	1,099	1,490	H3	03	新			
			036-2	RC	2	200		H3	03	新			
			035	RC	2	191		H3	03	新			
	2　中標津東小学校	校舎1	034	RC	3	5,713	5,713	H22	01	新			
		体育館	031	RC	2	1,266	1,266	H20	03	新			
	3　丸山小学校	校舎1	001	RC	2	4,004	4,004	S57	05	新			
		体育館	004	S	2	946	963	S57	11	新			
			003	RC	1	17		S57	11	新			
中学校	4　中標津中学校	校舎1	043	RC	3	5,409	5,409	H15	10	新			
		体育館	044	RC	2	1,231	1,411	H17	03	新			
			044-2	RC	1	180		H17	03	新			
	5　広陵中学校	校舎1	001	RC	2	2,365	4,005	S53	05	旧	H21	0.99	
			006-1	RC	2	1,200		S53	05	旧	H21	0.99	
			006-2	S	1	270		S53	05	旧	H21	1.08	H23
			011	RC	2	170		S62	11	新			
		体育館	007	S	1	817	927	S53	09	旧	H21	0.77	H23
			008	RC	1	110		S53	09	旧	H21	0.77	H23
義務教育学校	6　計根別学園	校舎1	C-034	RC	2	2,147	3,950	H26	10	新			
			J-030	RC	2	1,803		H26	10	新			
		体育館	C-035	RC	2	669	1,521	H27	10	新			
			J-031-1	RC	2	851		H27	10	新			
			J-031-2	RC	2	1		H27	10	新			
高等学校	7　北海道中標津農業高等学校	校舎1	044	RC	2	2,549	2,549	H12	10	新			
		校舎2	033	RC	2	920	920	H3	02	新			
		体育館	051	RC	1	47	901	R2	10	新			
			052	RC	2	854		R2	10	新			
		園芸実習室１	046	S	1	159	159	H25	10	新			
		園芸実習室２	035	S	1	158	158	H5	12	新			
		園芸実習室３	023	S	1	102	102	S55	11	旧			
		農業機械実習室１	007	W	1	200	200	S42	12	旧			
		農業機械実習室２	018	W	1	97	97	S48	12	旧			
		農業機械実習室３	020	S	1	230	320	S49	12	旧			
			024	S	1	90		S56	11	新			
		畜産実習室	021	S	2	597	597	S53	11	旧			
		部室	045	W	1	25	25	H14	12	新			
幼稚園	8　計根別幼稚園	園舎	004	RC	1	332	416	S56	11	新			
			005	W	1	84		H11	08	新			
他	9　中標津町学校給食センター	学校給食ｾﾝﾀｰ	007	RC	1	610	610	S58	12	新			
計		26棟					43,652 ㎡						

（２）建築年別での学校保有量の状況

学校施設等 26 棟を建築年別で示すと下図となります。築 30 年以上の施設は 14 棟 54%となっています。また、昭和 56（1981）年 6 月以前の旧耐震基準で建てられた学校施設等は 7 棟となります。（旧耐震基準で建てられた施設のうち、安全性が確保できていない農業高等学校保有の別棟施設は使用制限しています。）

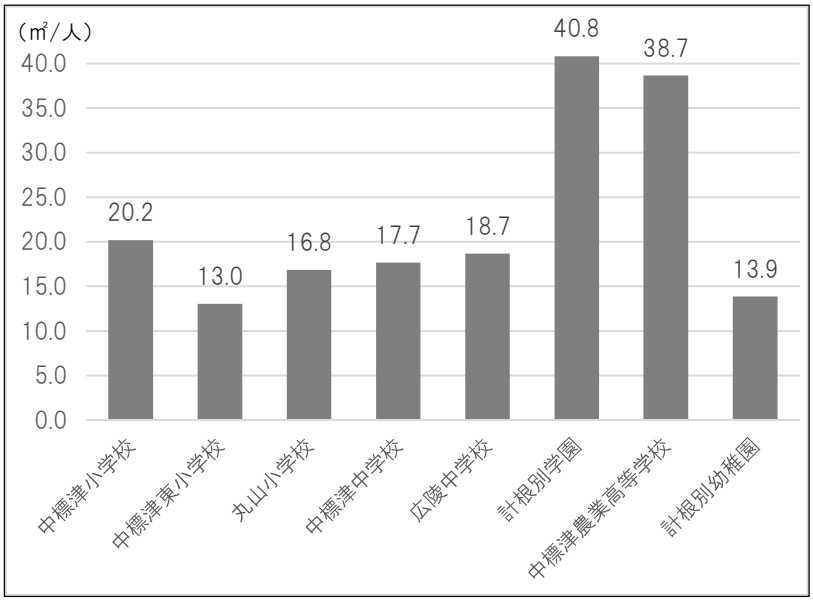
図表　建築年別整備状況（令和 2（2020）年 5 月現在）



（３）児童生徒１人当たりの施設面積

小学校での１人当りの施設面積は令和２年度現在で中標津小学校 20.2 ㎡/人、中標津東小学校 13.0 ㎡/人、丸山小学校 16.8 ㎡/人となっています。

中学校は中標津中学校 17.7 ㎡/人、広陵中学校 18.7 ㎡/人となっています。

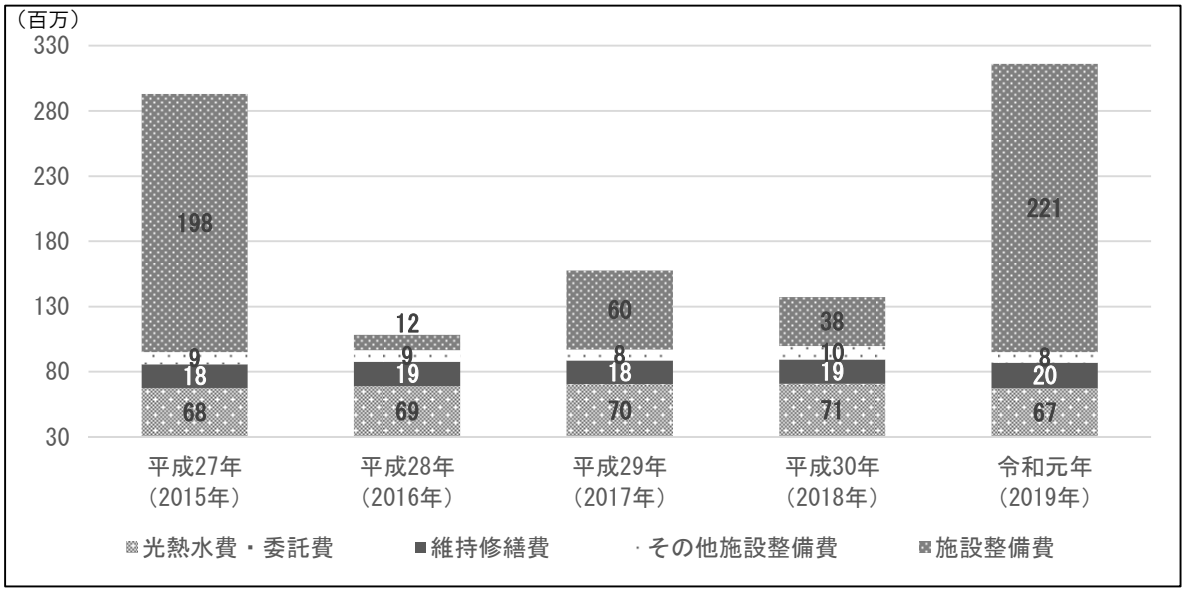


4　施設関連経費の推移

（１）学校施設等の施設関連経費の状況

過去５年間の学校施設における施設整備費の平均は約 10,500 万円/年、維持修繕費は約 900 万円/年、委託費は約 1,900 万円/年、光熱水費は約 6,900 万円/年となっています。

図表　施設関連経費の推移　　（単位：百万円）



（単位：円）

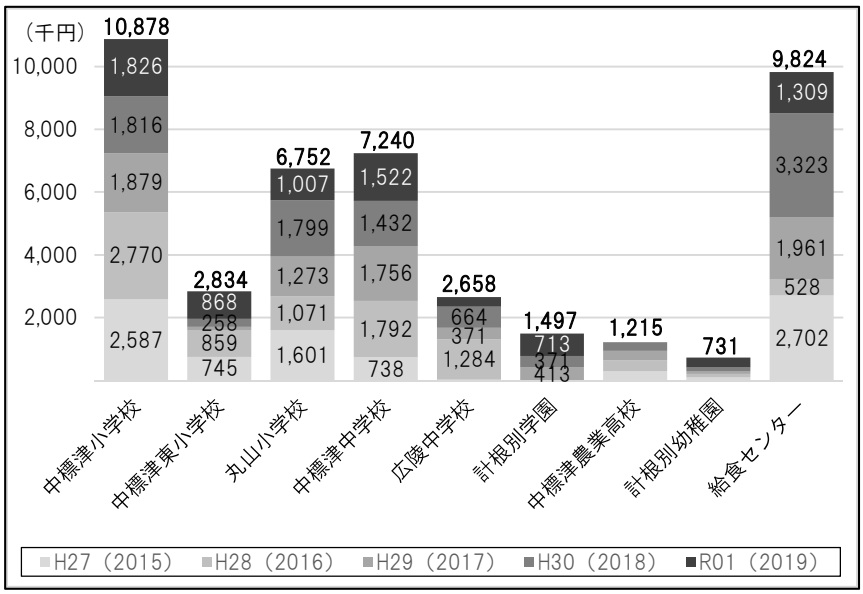
	種別	平成27年（2015年）	平成28年（2016年）	平成29年（2017年）	平成30年（2018年）	令和元年（2019年）
施設整備費	幼稚園	0	0	0	0	1,080,000
	小学校	8,586,000	5,659,200	4,621,320	5,981,040	2,343,200
	中学校	0	1,836,000	5,864,400	2,507,760	15,920,000
	義務教育学校	185,110,234	3,062,363	49,999,680	0	0
	農業高等学校	0	0	0	29,224,800	201,564,000
	給食センター	4,271,400	1,256,040	0	0	0
	計	**197,967,634**	**11,813,603**	**60,485,400**	**37,713,600**	**220,907,200**
維持修繕費	幼稚園	98,712	107,200	100,396	108,000	317,036
	小学校	5,374,649	4,813,070	3,522,395	3,934,897	3,973,072
	中学校	763,408	3,076,024	2,126,448	2,096,636	1,836,450
	義務教育学校	0	0	413,100	371,304	712,660
	農業高等学校	294,580	345,762	299,160	263,520	12,472
	給食センター	2,701,804	528,366	1,960,955	3,323,266	1,309,426
	計	**9,233,153**	**8,870,422**	**8,422,454**	**10,097,623**	**8,161,116**
委託費	幼稚園	292,680	292,680	292,680	321,820	365,200
	小学校	7,854,400	7,493,336	7,110,116	7,247,278	7,450,306
	中学校	4,071,600	4,291,272	4,291,272	4,332,370	4,419,572
	義務教育学校	2,277,944	2,675,496	2,773,396	2,826,176	2,873,656
	農業高等学校	2,605,824	2,668,032	2,668,032	2,810,179	3,200,800
	給食センター	1,140,156	1,146,636	1,137,456	1,264,356	1,277,837
	計	**18,242,604**	**18,567,452**	**18,272,952**	**18,802,179**	**19,587,371**
光熱水費	幼稚園	752,749	805,013	863,683	912,030	788,644
	小学校	26,624,052	27,203,941	28,019,763	28,347,713	27,730,406
	中学校	17,991,862	18,347,319	19,367,063	18,699,530	15,948,528
	義務教育学校	5,998,640	6,170,915	5,260,982	5,987,017	5,332,429
	農業高等学校	6,263,281	6,272,634	6,199,920	6,217,621	5,725,901
	給食センター	9,990,451	10,355,343	10,719,696	10,580,713	11,874,065
	計	**67,621,035**	**69,155,165**	**70,431,107**	**70,744,624**	**67,399,973**
合計		**293,064,426**	**108,406,642**	**157,611,913**	**137,358,026**	**316,055,660**

（２）学校ごとの維持修繕費の状況

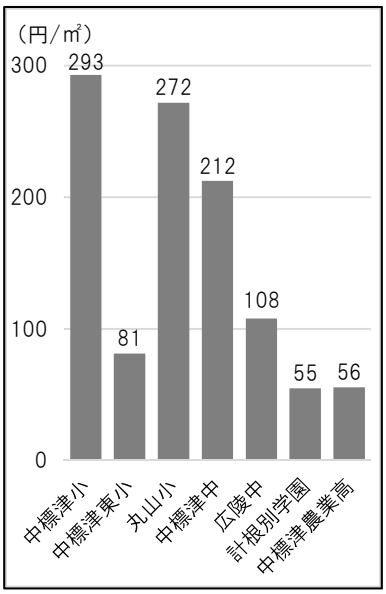
過去 5 年間の学校ごとの維持修繕費の推移を見ると、中標津小学校が最も多く累積で 10,878 千円、次いで給食センターが 9,824 千円となっています。

また、維持修繕費の年平均額を㎡あたりに換算すると、中標津小学校が最も多く 293 円/㎡、次いで丸山小学校が 272 円/㎡となっています。

図表　維持修繕費の 5 か年推移と累積額



図表　㎡あたり維持修繕費

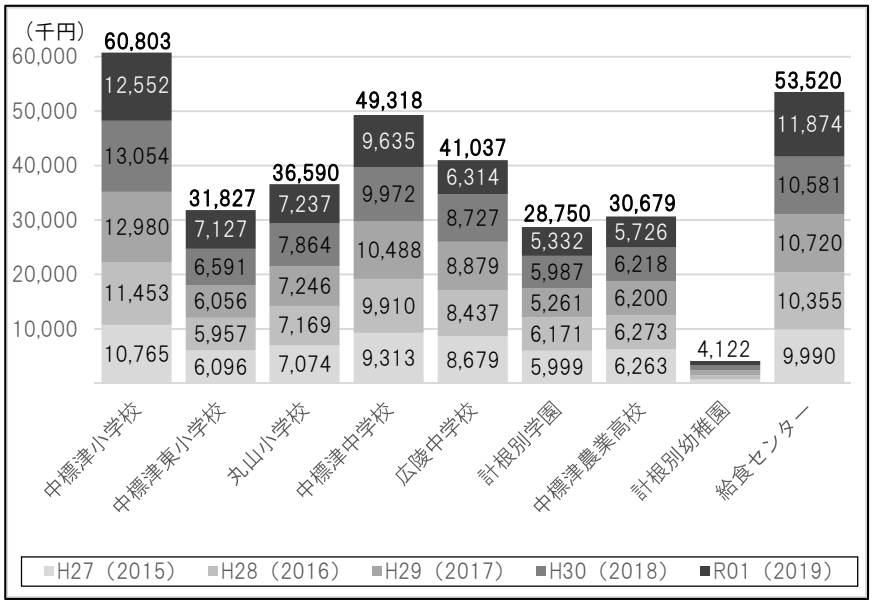


（３）学校ごとの光熱水費の状況

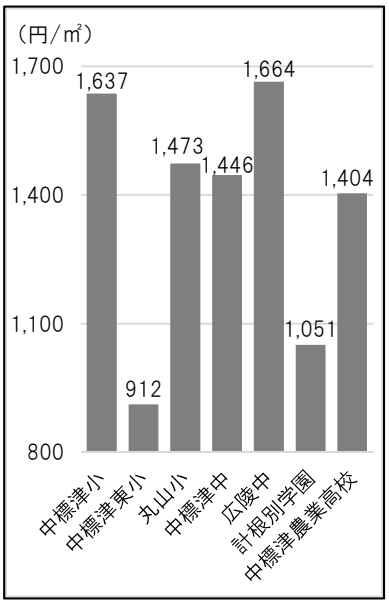
過去 5 年間の学校ごとの光熱水費の推移を見ると、中標津小学校が最も多く累積で 60,803 千円、次いで給食センターが 53,520 千円となっています。

また、光熱水費の年平均額を㎡あたりに換算すると、広陵中学校が最も多く 1,664 円/㎡、次いで中標津小学校が 1,637 円/㎡となっています。

図表　光熱水費の 5 か年推移と累積額



図表　㎡あたり平均光熱水費



5　学校施設の劣化状況の実態

（１）学校施設の劣化状況の評価

本町が管理し、令和元年度以降も使用する学校施設等について、劣化状況調査票を用いて構造躯体以外の劣化状況を評価します。評価は「屋上・屋根、外壁」については目視により、また「内部仕上げ、電気・機械設備」については経年劣化により、下の表の A～D 段階で評価します。

①目視による評価
（屋上・屋根、外壁）

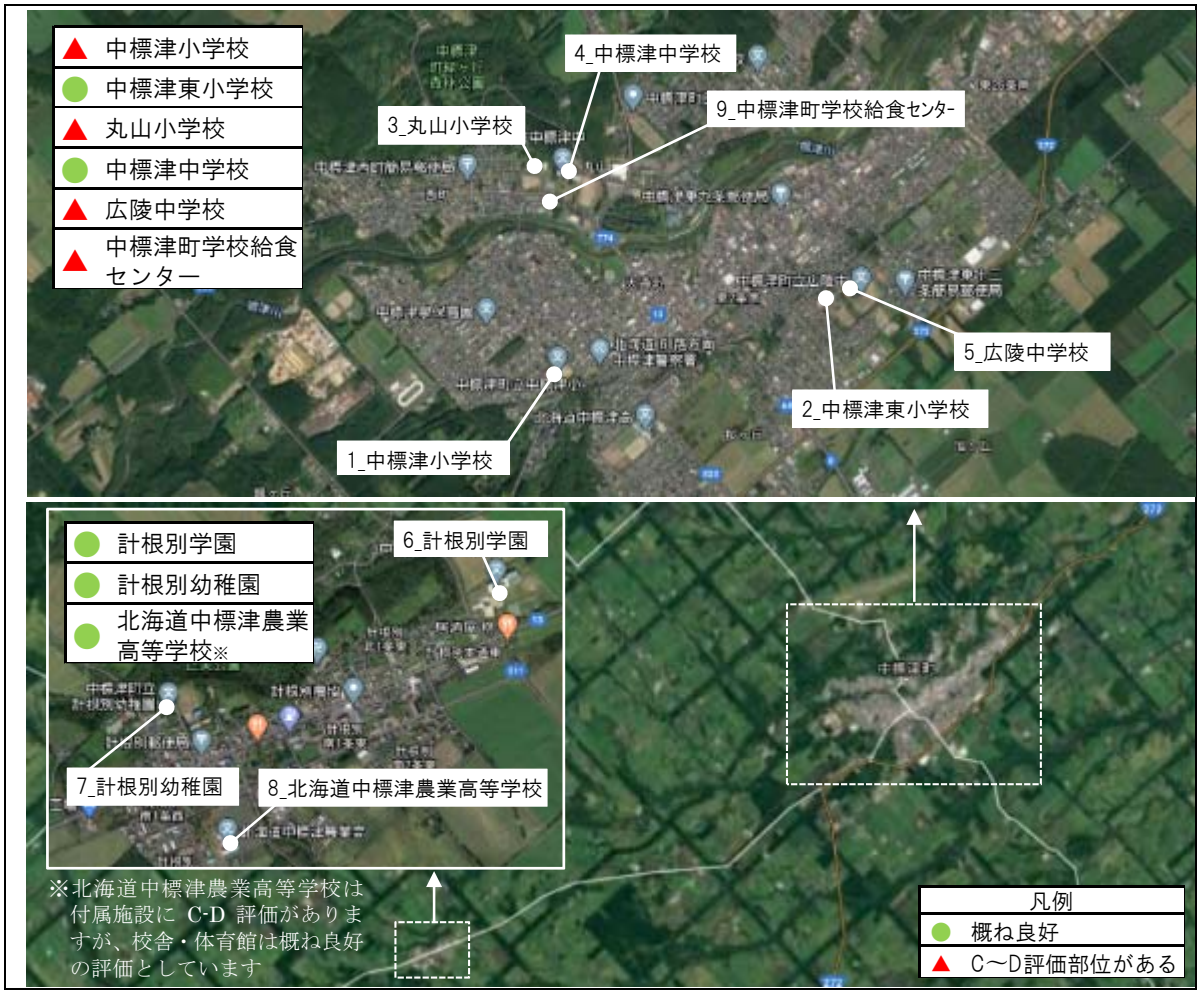
評価	基準（解説書）
A	概ね良好
B	部分的に劣化 （安全上、機能上、問題なし）
C	広範囲に劣化 （安全上、機能上、不具合発生の兆し）
D	早急に対応する必要がある （安全上、機能上、問題あり） （躯体の耐久性に影響を与えている） （設備が故障し施設運営に支障を与えている）等

②経年劣化による評価
（内部仕上げ、電気・機械設備）

評価	基準（解説書）
A	20年未満
B	20～40年
C	40年以上
D	経年劣化に関わらず著しい劣化事象がある場合

（２）学校施設の劣化状況調査

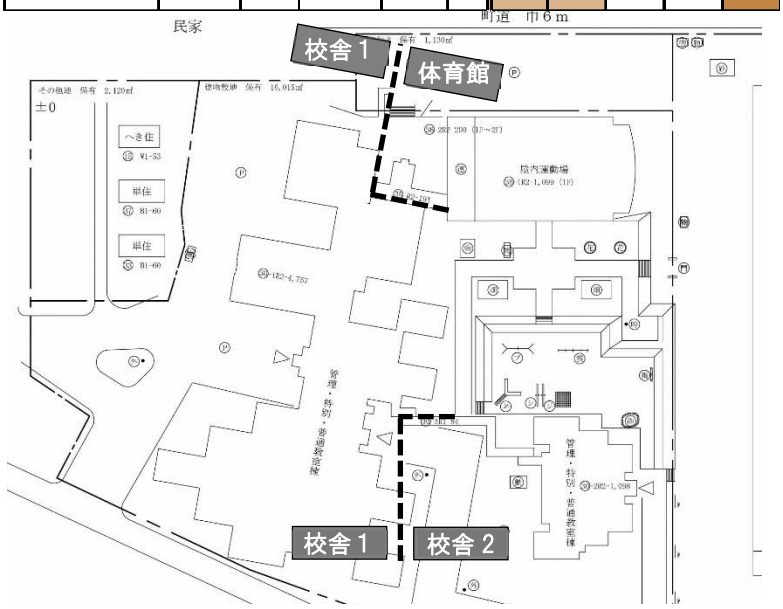
校舎および体育館等、主要施設についての評価結果概要は以下となります。



① 中標津小学校

― 劣化状況評価 ―

建物名	構造	階数	延床面積（㎡）	建築年月 和暦		劣化状況 屋根屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備
校舎1	RC	2	4,757	H1	10	C	C	B	B	D
校舎2	RC	2	1,182	H1	10	C	C	B	B	D
体育館	RC	2	1,490	H3	03	C	C	B	B	D



＜施設概況＞

◆校舎、体育館共に屋根・屋上、外壁は劣化、破損個所多数

＜設備概況＞

◆老朽化により配管類多数部分交換

＜バリアフリー＞

◆校舎・屋体共にバリアフリー未対応

＜トイレ＞

	職員	校舎	屋体	屋外	計
和大	2	22	2	2	28
洋大	2	16	2	2	22
小	3	24	3	3	33

◆全数洋式大便器率：44.0%

◆学童洋式大便器率：43.5%

校舎１（屋根・屋上）

1：屋上テラスの劣化

部分的な破損が見られる

2：屋根の劣化

広範囲にサビが見られる

校舎１（外壁）

3：外壁の塗装剥離

外壁断熱複合版のアクリル塗装は全般的に剥離が見られる

4：外壁の破損

外壁断熱複合版の破損が複数箇所で見られる

校舎２（渡り廊下）

1：渡り廊下壁面の塗装剥離

サッシ下部等の充填モルタル部の亀裂等による塗装剥離が複数箇所で見られる

2：渡り廊下窓の破損

渡り廊下の複数箇所で見られる窓の破損

校舎２（内部）

3：天井雨漏り跡

天井の雨漏り跡が部分的に見られる

4：パネルヒーターの破損

校舎内パネルヒーターが破損。全般的に交換時期を迎えている

体育館

5：外壁の亀裂

サッシ廻り等の亀裂が複数箇所で見られる

6：内壁の破損

壁面の破損が複数箇所で見られる

設備

7：設備（配管）の老朽化

機械室設備は全般的に老朽化が見られる。配管類は部分的な修繕が複数箇所で行われている

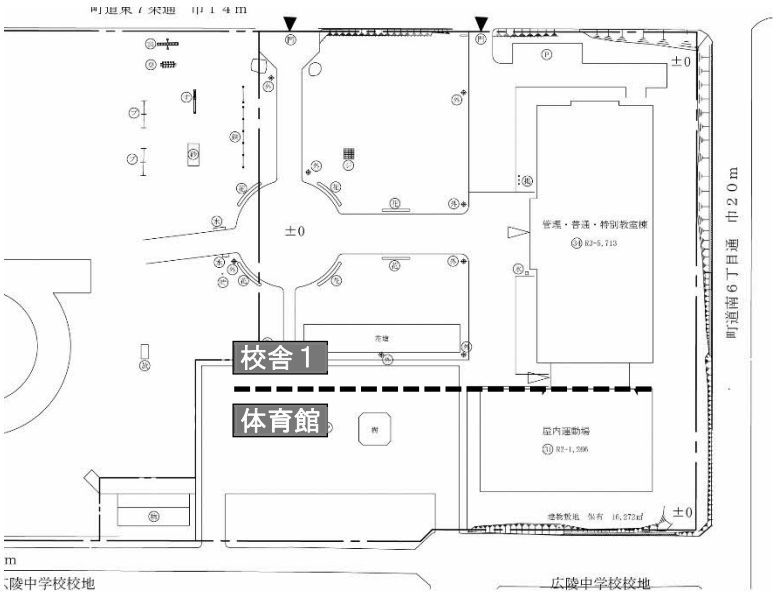
8：受水槽による管理コストの高騰

学校立地箇所は水圧が弱く受水槽を設置、管理コスト増加要因の一つ

②中標津東小学校

ー劣化状況評価ー

建物名	構造	階数	延床面積（㎡）	建築年月 和暦		劣化状況 屋根屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備
校舎1	RC	3	5,713	H22	01	A	A	A	A	A
体育館	RC	2	1,266	H20	03	A	A	A	A	A



＜施設概況＞
◆校舎・体育館共に良好な状態

＜設備概況＞
◆良好な状態

＜バリアフリー＞
◆校舎・屋体共にバリアフリー対応

＜トイレ＞

	職員	校舎	屋体	屋外	計
和大	1	10			11
洋大	2	19			21
小	2	19			21

◆全数洋式大便器率：65.6%
◆学童洋式大便器率：65.5%

屋上・屋根（校舎１）

1:トップライト周辺の状況

経年劣化も見られず良好な状態

2:屋上防水の状況

経年劣化も見られず良好な状態

外壁（校舎１）

3:外壁の状況

レンガブロックの外壁、は破損等無く良好な状態

4:サッシの状況

破損等無く良好な状態

外部・内部（校舎１）

1：エントランス周辺の状況

建具、軒下等破損等無く良好な状態

2：アトリウムの状況

アトリウム床及び各階廊下周辺破損等無く良好な状態

内部（校舎１）

3：サッシの状況

プレイルームサッシ周辺の状況、破損等無く良好な状態

4：パネルヒーターの状況

鉄破損等無く良好な状態

体育館

5：体育館の状況

床面に歪等無く良好な状態

6：地階機械室階段

コンクリート壁に亀裂等は無く良好な状態

設備等

7：機械室の状況

破損等は無く良好な状態

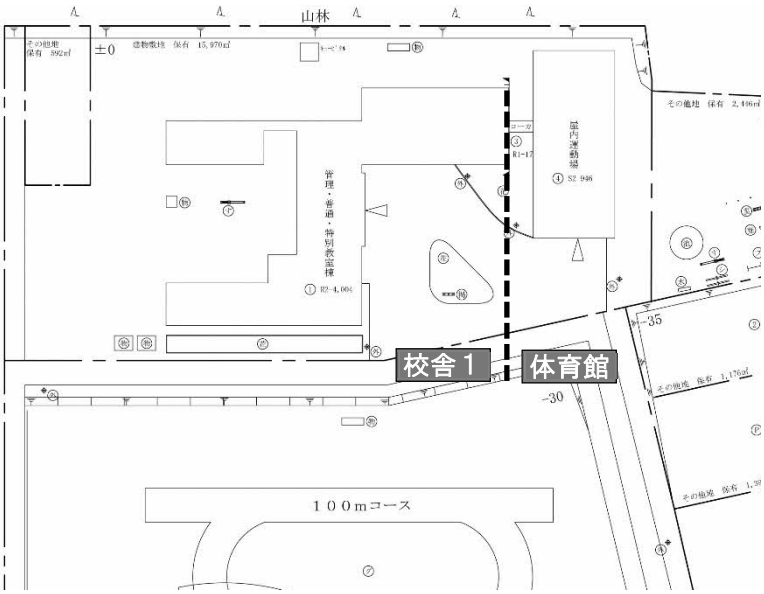
8：電気室の状況

屋内型キュービクルに破損等は無く良好な状態

③丸山小学校

ー劣化状況評価ー

建物名	構造	階数	延床面積（㎡）	建築年月 和暦		劣化状況 屋根屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備
校舎1	RC	2	4,004	S57	05	C	C	B	B	B
体育館	S/RC	1	963	S57	11	C	C	B	B	B



＜施設概況＞

◆校舎：屋根、屋上防水共に経年劣化（校舎内雨漏り箇所多数）

◆屋体：外壁劣化、一部破損

＜設備概況＞

◆電気設備老朽化、他各所ヒーター交換時期

＜バリアフリー＞

◆校舎・屋体共に未対応

＜トイレ＞

	職員	校舎	屋体	屋外	計
和大	2	16	2		20
洋大	2	14	3		19
小	2	17	3		22

◆全数洋式大便器率：48.7%

◆学童洋式大便器率：48.6%

屋根・屋上

1:屋上防水の劣化

アスファルト防水、部分的な劣化が見られる

2:屋根板金の劣化

屋根板金は全体的に劣化、写真は雨漏り補修箇所

外壁

3:外壁の劣化

外壁は経年的な劣化は見られる

4:体育館壁面の破損

セメント成型外壁材の破損、複数箇所で見られる

外壁等			
1：サッシ周辺の亀裂 サッシ周辺の充填モルタル部の亀裂、複数箇所で見られる		**2：エントランス部の沈下** エントランス周辺の沈下による段差やタイル等の破損が見られる	
内部			
3：天井の雨漏り エキスパンジョイント部に雨漏りが見られる		**4：床の亀裂** 校舎廊下部床の亀裂、複数箇所で見られる	
設備等			
5：ヒーターの劣化 ヒーターの大半が経年劣化による故障		**6：トイレの状況** 和式トイレの割合が高い	
体育館			
7：体育館の状況 経年劣化が見られるものの破損等は見られない		**8：ヒーターの状況** 経年劣化によりヒーターの破損が複数機で見られる	

④中標津中学校

－劣化状況評価－

建物名	構造	階数	延床面積（㎡）	建築年月 和暦		劣化状況 屋根屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備
校舎1	RC	3	5,409	H15	10	A	A	B	A	A
体育館	RC	2	1,411	H17	03	A	A	B	A	A

＜施設概況＞

◆校舎・体育館共に良好に管理（一部、屋内雨漏り等は対応済み）

＜設備概況＞

◆良好な状態

＜バリアフリー＞

◆校舎・屋体共にバリアフリー対応

＜トイレ＞

	職員	校舎	屋体	屋外	計
和大		18	2		20
洋大	3	31	3		37
小	2	18	3		23

◆全数洋式大便器率：64.9%

◆学童洋式大便器率：63.0%

校舎１（屋上）

1:屋上防水の劣化

アスファルト防水の状況、経年劣化による部分補修の状況

2:トップライトの状況

雨漏り等は無く概ね良好な状態

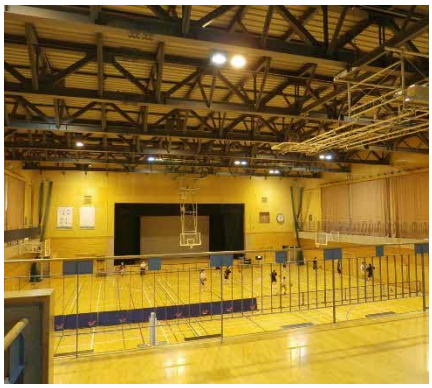
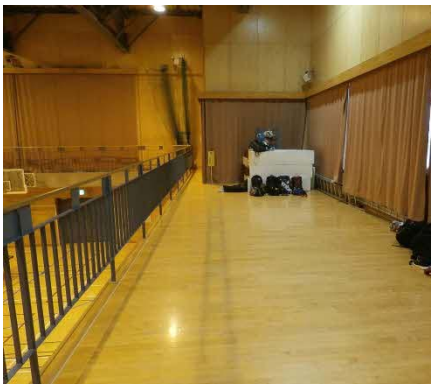
校舎１（外壁等）

3:外壁の状況

外断熱レンガ工法の外壁、破損等は無く良好な状態

4:サッシの状況

サッシの状況、破損等は無く良好な状態

校舎１（内部）			
1：内部廊下の状況 破損等は無く良好な状態		**2：廊下の雨漏り跡** 廊下の雨漏り跡、現在は止まっている	
校舎１（内部）			
3：渡り廊下の状況 体育館の渡り廊下の状況、床面に劣化が見られる		**4：コンクリート壁の状況** 階段室コンクリート壁の状況、コーキング含め劣化等は無く良好な状態	
校舎１（設備等）			
5：男子トイレ 経年劣化は無く良好な状態		**6：機械室の状況** 設備機器に破損等は無く良好な状態	
体育館			
7：体育館内部の状況 劣化等は無く良好な状態		**8：体育館床の状況** 歪み等は無く良好な状況	

⑤広陵中学校

ー劣化状況評価ー

建物名	構造	階数	延床面積（㎡）	建築年月 和暦		劣化状況 屋根屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備
校舎1	RC/S	2	4,005	S53	05	D	D	D	D	D
体育館	S/RC	1	927	S53	09	D	D	D	D	D

＜施設概況＞

◆校舎・体育館共に劣化、亀裂、破損、塗装剥離箇所多数

＜設備概況＞

◆機械設備老朽化、他各所ヒーター交換時期

＜バリアフリー＞

◆校舎・屋体共にバリアフリー未対応

＜トイレ＞

	職員	校舎	屋体	屋外	計
和大	2	22	2	2	28
洋大	2	16	2	2	22
小	3	24	3	3	33

◆全数洋式大便器率：44.0%

◆学童洋式大便器率：43.5%

校舎（屋根、外壁）

1:屋根の破損

屋根板金の状況、一部、破損が見られる

2:校舎外壁の状況

サッシ周辺の亀裂、複数箇所で見られる

校舎（屋根、外壁）

3:外壁の塗装剥離

サッシ下部の塗装剥離、複数箇所で見られる

4:体育館エントランス部手摺りの破損

手摺り設置部コンクリートの破損

校舎（内部）

1：校舎内部の状況

全体的に経年劣化が見られる

2：床の亀裂

校舎廊下床の亀裂、複数箇所で見られる

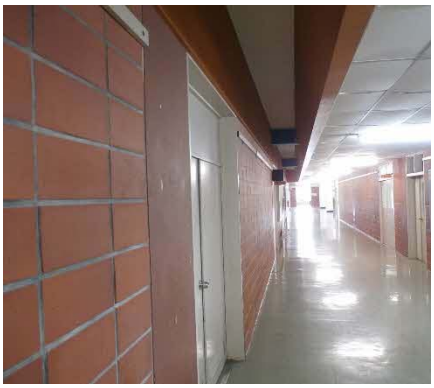
体育館

3：廊下天井の状況

廊下天井の状況、ジョイント部にたわみが見られる

4：廊下内壁の状況

セラミックブロックの壁面、破損等は見られない



屋外トイレ

5：トイレの状況

男子トイレの状況、和便器の数が過半を占める

6：ヒーターの破損

校内のヒーター破損が複数箇所で見られる

体育館

7：体育館の状況

経年劣化は見られるものの破損等は無い

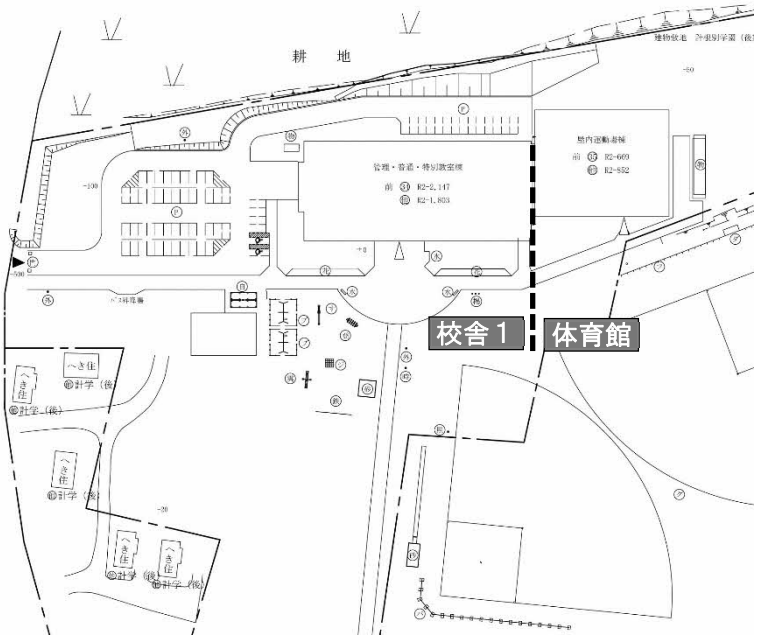
8：ヒーターの破損

ヒーターは経年劣化により複数箇所で更新が行われている

⑥計根別学園

ー劣化状況評価ー

建物名	構造	階数	延床面積（㎡）	建築年月 和暦		劣化状況 屋根屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備
校舎1	RC	2	3,950	H26	10	A	A	A	A	A
体育館	RC	2	1,521	H27	10	A	A	A	A	A



＜施設概況＞
◆校舎・体育館共に良好な状態

＜設備概況＞
◆良好な状態

＜バリアフリー＞
◆校舎・屋体共にバリアフリー対応

＜トイレ＞

	職員	校舎	屋体	屋外	計
和大		4			4
洋大	5	17			22
小	2	12			14

◆全数洋式大便器率：84.6%
◆学童洋式大便器率：81.0%

屋上

1:屋上防水の状況(校舎)

アスファルト防水の状況、劣化等は無く良好な状態

2:屋上防水の状況（体育館）

ステンレス防水の状況、劣化等は無く良好な状態

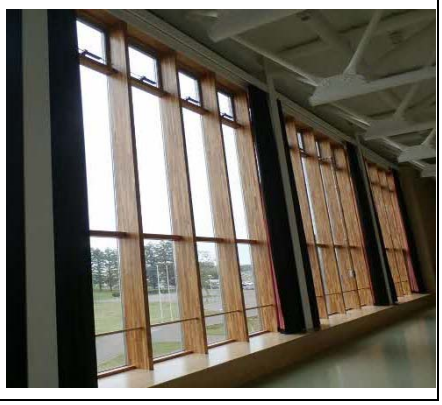
校舎（外壁）

3:外壁の状況

劣化等は無く良好な状態

4:外壁の状況

コーキングに硬化等は無く良好な状態

校舎（内部）			
1：多目的ホール周辺の状況 ホール天井や壁面、各階廊下等に劣化等は見られず良好な状態		**2：建具の状況** 校舎内の木製建具の状況、破損等は無く良好な状態	
校舎（内部）			
3：廊下の状況 劣化等は見られず良好な状態		**4：床の状況** 多目的ホール床の状況、劣化等は見られず良好な状態	
校舎（設備）			
5：機械室の状況 機器に劣化等は無く良好な状態		**6：トイレの状況** 校舎トイレ、洋式が過半を占める	
体育館			
7：体育館の状況 劣化等は無く良好な状態		**8：体育館サッシの状況** 集成材によるサッシ、劣化等は無く良好な状態	

⑦北海道中標津農業高等学校

ー劣化状況評価ー

建物名	構造	階数	延床面積（㎡）	建築年月 和暦		劣化状況 屋根屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備
校舎1	RC	2	2,549	H12	10	B	B	B	B	B
校舎2	RC	2	920	H3	02	B	B	B	B	B
体育館	RC	2	901	R2	10	A	A	A	A	A
園芸実習室１	S	1	159	H25	10	A	A	A	A	A
園芸実習室２	S	1	158	H5	12	B	B	B	B	B
園芸実習室３	S	1	102	S55	11	C	C	C	C	C
農業機械実習室１	W	1	200	S42	12	D	D	C	C	C
農業機械実習室２	W	1	97	S48	12	C	C	C	C	C
農業機械実習室３	S	1	320	S49	12	C	C	C	C	C
畜産実習室	S	2	597	S53	11	C	C	C	C	C
部室	W	1	25	H14	12	B	B	B	B	B

＜施設概況＞

◆校舎外壁等一部劣化、体育館は新設、付属棟老朽施設多数

＜設備概況＞

◆機械室他設備は老朽化

＜バリアフリー＞

◆校舎バリアフリー未対応

＜トイレ＞

	職員	校舎	屋体	屋外	計
和大	2	7			9
洋大	2	5			7
小	4	7			11

◆全数洋式大便器率：43.8%

◆学童洋式大便器率：41.7%

校舎（屋上・屋根）

1：屋上防水の状況

部分的な劣化が見られる

2：屋根の状況

塗装面など部分的な劣化が見られる

校舎（外壁）

3：サッシ周辺の亀裂

サッシ周辺の充填モルタル部の亀裂、複数箇所で見られる

4：外壁の亀裂

外壁の亀裂、部分補修の跡が見られる

校舎（内部）			
1:廊下の状況 経年劣化が見られるものの破損等は見られない		**2:天井の雨漏り跡** 校舎エキスパンジョイントの周辺部に雨漏り跡が見られる	
校舎（内部）			
3:サッシのシーリング剥離 サッシのシーリング剥離、複数箇所で見られる		**4:トイレの状況** 湿式床のトイレ、大便器の洋式についても 4 割程度となっている	
付属棟			
5:外壁材コーキングの剥離 園芸実習室 3 の外壁、経年劣化とともに、外壁材コーキング硬化と部分的な剥離が見られる		**6:外壁の亀裂** 農業機械実習室 1 の外壁開口部の亀裂、複数箇所で見られる	
付属棟			
7:屋根の劣化 畜産実習室の屋根、部分的な劣化が見られる		**8:外壁の劣化** 農業機械実習室 2 の柱部分、広範囲な亀裂が見られる	

⑧ 計根別幼稚園

－劣化状況評価－

建物名	構造	階数	延床面積（㎡）	建築年月 和暦		劣化状況 屋根屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備
園舎	RC/W	1	416	S56	11	B	B	B	B	B

＜施設概況＞

◆経年劣化は見られるものの、亀裂箇所等修繕対応済み

＜設備概況＞

◆機器交換等修繕対応済み

＜バリアフリー＞

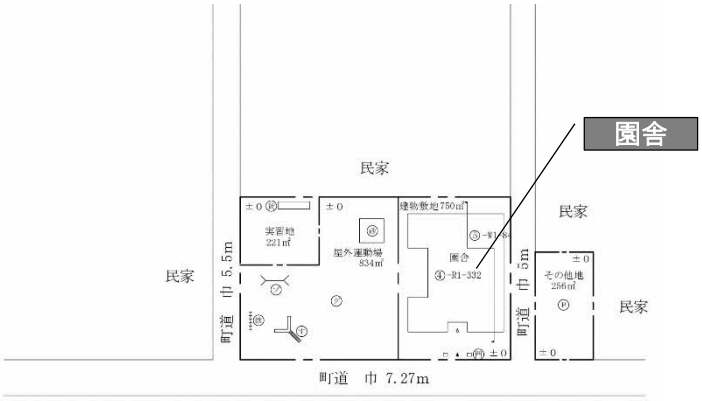
◆バリアフリー未対応

＜トイレ＞

	職員	校舎	屋体	屋外	計
和大		1			1
洋大	1	3			4
小	1	2			3

◆全数洋式大便器率：80.0%

◆学童洋式大便器率：75.0%



園舎（屋根）

1:屋根の状況

経年劣化が見られる、また、部分的に補修が行われている

2:屋根・外壁の状況

増築部の状況、軒下等経年劣化が見られるが破損等は無い

園舎（外壁）

3:外壁の状況（増築部）

増築部の外壁と樹脂サッシの状況、破損等は無く概ね良好な状態

4:外壁の状況（既存部）

既存部の外壁の状況、モルタルの亀裂等が見られる

園舎（外部）			
1：サッシの状況 既存部のサッシ、コーキングの剥離が複数箇所で見られる		**2：外壁の状況** 増築箇所のコーキング、部分的に硬化が見られる	
園舎（外部）			
3：サッシ周辺の劣化 既存部サッシ周辺の充填モルタル部の劣化が見られる		**4：板金の劣化** 外壁の一部の板金の状況、劣化による錆と塗装剥離が見られる	
園舎（内部）			
5：内部の状況 経年劣化が見られるものの破損等はなく概ね良好な状態		**6：内部の状況（水飲み場）** 経年劣化が見られるものの破損等は無く概ね良好な状態	
園舎（内部）			
7：サッシ周辺の状況 木製建具周辺の状況、部分的な経年劣化が見られる物の破損等は無い		**8：暖房機器の状況** 経年劣化は見られる物の現在のところ稼働に支障は無い	

⑨ 中標津町学校給食センター

建物名	構造	階数	延床面積（㎡）	建築年月 和暦		劣化状況 屋根屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備
学校給食ｾﾝﾀｰ	RC	1	610	S58	12	B	C	C	B	B

＜施設概況＞

◆施設老朽化、現在の施設整備基準に対応できていない

＜設備概況＞

◆機器交換等により修繕済み

＜バリアフリー＞

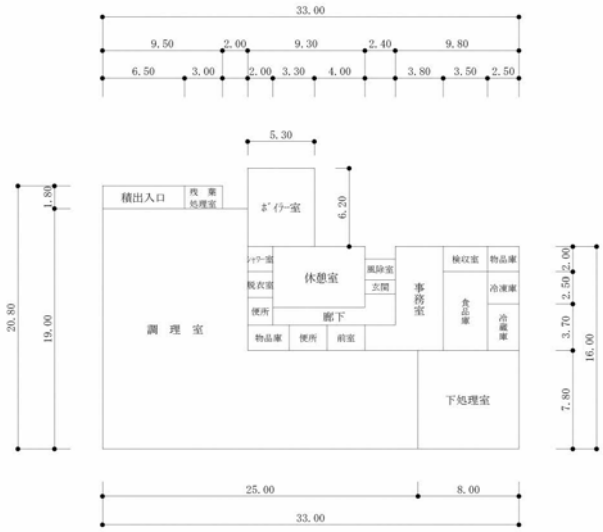
◆バリアフリー未対応

＜トイレ＞

	職員	調理員	計
和大	1	3	4
洋大			
小	1		1

◆全数洋式大便器率：0.0%

◆学童洋式大便器率：0.0%



施設（外部）

1:外壁の状況

経年劣化が見られる

2:外壁の状況

残葉処理室前の外壁の状況、コンクリートの破損、アングルコーナー材の錆による劣化が見られる

施設（外部）

3:外壁の状況

外壁内部鉄筋の腐食膨張によるひび割れ

4:プラットホームの破損

搬入プラットホーム部の一部破損が見られる

施設（検収室・食品庫）

1：検収室の状況

検収室の状況、荷受室と皮剥室も兼ねており、現在の施設基準に対応できていない箇所

2：食品庫の状況

食品庫の状況、食材ごとの収納に対応できない

施設（下処理室）

3：下処理室の状況

野菜類や魚肉卵毎の専用室となっていない

4：下処理室床の亀裂

施設老朽化による床の亀裂、複数箇所で見られる

施設（調理室）

5：調理室の状況

アレルギー食等の専用室に分かれていない

6：調理室床の亀裂

調理室床の亀裂、複数箇所で見られる

施設（調理室・ボイラー室）

7：調理室の状況(積出口)

調理室の状況、消毒保管・搬送室も兼ねている

8：ボイラー室の状況

ボイラー室の状況、機器・配管類は老朽化が見られる

（４）構造躯体の健全性及び構造躯体以外の劣化状況等の評価

学校施設の劣化状況は、全般的に劣化が顕著な建物のほか、屋根・屋上、外壁等の部位でC～D判定となる施設も見られます。

図表　学校施設の劣化状況評価

建物基本情報								構造躯体の健全性						劣化状況評価					
施設名	建物名	構造	階数	延床面積（㎡）	建築年度 西暦	建築年度 和暦	築年数	耐震安全性 基準	耐震安全性 診断	耐震安全性 補強	長寿命化判定 調査年度	長寿命化判定 圧縮強度（N/㎟）	長寿命化判定 試算上の区分	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度（100点満点）
中標津小学校	校舎1	RC	2	4,757	1989	H元	31	新					長寿命	C	C	B	B	D	54
中標津小学校	校舎2	RC	2	1,182	1989	H元	31	新					長寿命	C	C	B	B	D	54
中標津小学校	体育館	RC	2	1,490	1989	H元	31	新					長寿命	C	C	B	B	D	54
中標津東小学校	校舎1	RC	3	5,713	2010	H22	10	新					長寿命	A	A	A	A	A	100
中標津東小学校	体育館	RC	2	1,266	2008	H20	12	新					長寿命	A	A	A	A	A	100
丸山小学校	校舎1	RC	2	4,004	1982	S57	38	新					長寿命	C	C	B	B	B	62
丸山小学校	体育館	S	2	963	1982	S57	38	新					長寿命	C	C	B	B	B	62
中標津中学校	校舎1	RC	3	5,409	2003	H15	17	新					長寿命	A	A	B	A	A	91
中標津中学校	体育館	RC	2	1,411	2005	H17	15	新					長寿命	A	A	B	A	A	91
広陵中学校	校舎1	RC	2	4,005	1978	S53	42	旧	済	済	H21	21.0	長寿命	D	D	D	D	D	10
広陵中学校	体育館	S	1	927	1978	S53	42	旧	済	済	H21	21.0	長寿命	D	D	D	D	D	10
計根別学園	校舎1	RC	2	3,950	2015	H27	5	新					長寿命	A	A	A	A	A	100
計根別学園	体育館	RC	2	1,521	2015	H27	5	新					長寿命	A	A	A	A	A	100
計根別幼稚園	園舎	RC	1	416	1981	S56	39	新					長寿命	B	B	B	B	B	75
北海道中標津農業高等学校	校舎1	RC	2	2,549	2000	H12	20	新					長寿命	B	B	B	B	B	75
北海道中標津農業高等学校	校舎2	RC	2	920	1991	H3	29	新					長寿命	B	B	B	B	B	75
北海道中標津農業高等学校	体育館	RC	2	901	2020	R2	0	新					長寿命	A	A	A	A	A	100
北海道中標津農業高等学校	園芸実習室1	S	1	159	2013	H25	7	新					長寿命	A	A	A	A	A	100
北海道中標津農業高等学校	園芸実習室2	S	1	158	1993	H5	27	新					長寿命	B	B	B	B	B	75
北海道中標津農業高等学校	園芸実習室3	S	1	102	1980	S55	40	旧					長寿命	C	C	C	C	C	40
北海道中標津農業高等学校	農業機械実習室1	W	1	200	1967	S42	53	旧					長寿命	D	D	C	C	C	29
北海道中標津農業高等学校	農業機械実習室2	W	1	97	1973	S48	47	旧					長寿命	C	C	C	C	C	40
北海道中標津農業高等学校	農業機械実習室3	S	1	320	1974	S49	46	旧					長寿命	C	C	C	C	C	40
北海道中標津農業高等学校	畜産実習室	S	2	597	1978	S53	42	旧					長寿命	C	C	C	C	C	40
北海道中標津農業高等学校	部室	W	1	25	2002	H14	18	新					長寿命	B	B	B	B	B	75
中標津町学校給食センター	給食ｾﾝﾀｰ	RC	1	610	1983	S58	37	新					長寿命	B	C	C	B	B	52

※築年数が30年以上経過している施設を薄赤色、50年以上経過している施設を赤色で表示しています。

第３章　学校施設整備の基本的な方針

１　学校施設を取り巻く状況の整理

本町の学校施設を取巻く状況を整理すると以下となります。

◆少子高齢化の進展と子どもの数の減少

➢人口は平成 22（2010）年の 23,982 人をピークに減少に転じています。

➢平成 27 年国勢調査における人口は 23,774 人ですが、人口推計においても緩やかに減少が続くとし、20 年後となる令和 22（2040）年は、22,607 人と推計しています。

➢小学校の児童生徒数は近年減少傾向が続き、令和 2（2020）年 5 月現在で 1,289 人 73 学級となっています。

➢中学校の生徒数も同様に近年減少傾向が続き、令和 2（2020）年 5 月現在で 706 人 36 学級となっています。

➢高校は平成 2 年以降減少傾向で推移していますが、現生徒数 113 程度を維持するものと想定します。

◆町が管理する公共施設の内、２番目に大きい学校教育系施設の管理床面積

➢本町では現在、町立の義務教育学校６校の他、高等学校、幼稚園、給食センターの計９施設を管理しています。

➢中標津町公共施設等総合管理計画（平成 28 年 2 月）では、本町が所有・管理する公共施設のうち、学校教育系施設は公営住宅に次ぐ面積であり、全体の 23.9%となっています。

◆築 30 年を超える施設が床面積割合で全体の 4.5 割

➢令和 2（2020）年度現在、本町が管理する学校施設等は 26 棟あり、延床面積は約 4.37 万㎡となっています。

➢築年数別では、築 40 年以上経過した施設が全体の約 14%（0.6 万㎡）、築 30 年以上経過した施設は 45%（2 万㎡）を占めています。

➢昭和 56 年（1981 年）6 月以前の旧耐震基準で建てられた学校施設は 7 棟が該当します。これらについては耐震診断が行われ、耐震補強が必要と診断された 1 校 2 棟の建物については、耐震改修が行われております。

➢また、これら老朽化が見られる施設については、計画的に修繕を進めていますが、管理施設数も多いことから、次の改善周期を迎える施設に対し、大規模な改善や老朽部位の個別改修等の対応を計画的に進める必要があります。

◆小中一貫教育の推進

➢本町では、令和 2 年度から全ての義務教育諸学校において小中一貫教育を導入しています。

➢小中一貫型小学校・中学校による学校単位は中学校区であるため、学校配置や施設整備計画では重要な要素になります。

名称	導入年度	種類・形態	構成校
中標津学園	令和 2 年度	小中一貫型小学校・中学校（施設分離型）	・中標津中学校 ・中標津小学校 ・丸山小学校
旭ケ丘学園	令和 2 年度	小中一貫型小学校・中学校（施設分離型）	・広陵中学校 ・中標津東小学校
計根別学園	平成 28 年度	義務教育学校（施設一体型）	－

2　学校施設のめざすべき姿

学校施設のめざすべき姿は、今後の学校施設整備の取組みにおいて実現すべき目標像となります。以下は文部科学省の諮問会議等において「安全性」「快適性」「学習活動への適応性」「環境への適応性」「地域の拠点化」の観点により示されたものですが、以下の項目を目標像の基本とし、適切な改築や改修等の施設整備を行います。

図表　学校施設の目指すべき姿（学校施設整備基本構想の在り方について H25 年 3 月）

1　安全性	
◆災害対策	◇地震・津波・洪水に強い学校施設 ◇防災機能を備えた学校施設
◆防犯・事故対策	◇安全で安心な学校施設
2　快適性	
◆快適な学習環境	◇学習能率の向上に資する快適な学習環境 ◇バリアフリーに配慮した環境　ほか
◆教職員に配慮した環境	◇教職員に配慮した空間 ◇教職員等の事務負担軽減などのための校務の情報化に必要なＩＣＴ環境　ほか
3　学習活動への適応性	
◆主体性を養う空間の充実	◇子どもたちの自発的な学習や読書活動を促すための環境 ◇子どもたちの教科等に対する興味関心を引き、自ら学ぶ主体的な行動を促すための空間 ◇子どもたちや保護者等が教員を訪れやすい空間 ◇社会性を身に付けるための空間　ほか
◆効果的・効率的な施設整備	◇習熟度別指導や少人数指導などの、きめ細かい個に応じた指導を行うための空間 ◇調べ学習や習熟度別学習、チームティーチングなどの多様な学習集団・学習形態を展開するための空間 ◇各教科等の授業の中での調べ学習や協働学習、観察・実験のまとめや児童生徒の成果発表などに活用して学習効果を高めるための ICT 環境 ◇各教科等の授業を充実させるための環境
◆言語活動の充実	◇各教科等における発表･討論などの教育活動を行うための空間 ◇子どもたちの自発的な学習や読書活動を促すための環境 ◇各教科等の授業の中での調べ学習や協働学習、観察・実験のまとめや児童生徒の成果発表などに活用して学習効果を高めるための ICT 環境
◆理数教育の充実	◇充実した観察・実験を行うための環境
◆運動環境の充実	◇充実した運動ができる環境
◆伝統や文化に関する教育の充実	◇伝統や文化に関する教育を行うための環境
◆外国語教育の充実	◇外国語活動等におけるジェスチャーゲームなどの体を動かす活動や、ペアやグループでの活動など、児童生徒が積極的にコミュニケーションを図ることができるような空間
◆学校図書館の活用	◇子どもたちの自発的な学習や読書活動を促すための環境 ◇地域の生涯学習の拠点となる学校施設　ほか
◆キャリア教育・進路指導の充実	◇充実したキャリア教育･進路指導を行うための環境
◆食育の充実	◇食育のための空間
◆特別支援教育の推進	◇バリアフリーに配慮した環境 ◇自閉症、情緒障害又はＡＤＨＤ等のある児童生徒に配慮した学校施設
◆環境教育の充実	◇地球環境問題への関心を高めるためのエコスクール
4　環境への適応性	
	◇環境を考慮した学校施設（エコスクール）
5　地域の拠点化	
	◇安全で安心な学校施設 ◇バリアフリーに配慮した環境 ◇地域に開かれた学校とするための環境 ◇地域の生涯学習の拠点となる学校施設

3　学校施設整備の基本的な方針

本町の公共施設等総合管理計画においては、公共施設全体のマネジメントとして、将来の人口減少に応じた計画的な更新・統廃合・長寿命化等の検討、財政負担の軽減・平準化、公共施設等の最適な配置の実現が必要としています

また、財政状況への対応として、公共サービスの一定水準を維持しつつ、運営コストをできる限り抑制することを念頭に、更新（建替え）や大規模修繕等をどの施設に、どのような対策を、どの時期に行うかを適切に判断することとしています。

こうした方針の下、今後における学校施設整備の基本的な方針は、他のインフラ整備の方向性と同様に、従来型の老朽化による建替えから、長寿命化による施設の維持を図り、施設整備のコスト低減及び平準化を進めていくことを基本とします。

本計画では、今後の学校施設管理において、築40年を目安に躯体の健全性の調査を行い、長寿命化改修工事を実施し、施設の活用については80年を目標とします。また、詳細調査の結果から長寿命化が困難である等、施設の状況を踏まえ、統廃合や複合化を検討したうえで建替えを行います。

また、改修又は建替え後20年を目安として、劣化や損傷が軽微な早期段階に適切な予防保全対策を実施し、突発的な不具合を未然に防ぐことで、建物の長寿命化を図ります。

＜第 6 期中標津町総合発展計画：基本目標 6＞

＜中標津町教育大綱：基本理念＞

人が輝き歴史と文化を育むまちづくり

［総合発展計画：施策］

学校教育の充実	◇次世代を担う子どもたちが、社会を形成する上で必要な基礎・基本を身につけ成長していけるよう、「生きる力」を育み、人としての幸福感を実感できる教育を推進します。

＜中標津町公共施設等総合管理計画＞

項目	内容
維持管理･修繕･更新の実施方針	◆予防保全型維持管理については、公共施設等の利用率、役割、老朽化等を総合的に勘案し、維持管理･修繕･更新等を実施します。なお、実施にあたっては、既存施設との集約化や小規模化及び設備等の省エネ化等を十分検討し、初期投資及び施設運営に関するコストを総合的に検証したうえでトータルコストに配慮することとします
長寿命化の実施方針	◆点検･診断等の実施方針のとおり早期に健全度を把握するとともに、予防保全型維持管理を行い、今後も継続的な運用（利用）をする必要がある施設については、計画的な施設の長寿命化を推進します。
統合や廃止の推進方針	◆公共施設等の利用状況や老朽化等を踏まえ、統合や廃止（取り壊し）の方向性を検討します。方向性の検討にあたっては、単に施設の必要性の有無だけで判断するのではなく、施設で行われている事業（サービス）の必要性等とあわせて検討を行う必要があります。

4　改修等の基本的な方針

（１）長寿命化の方針

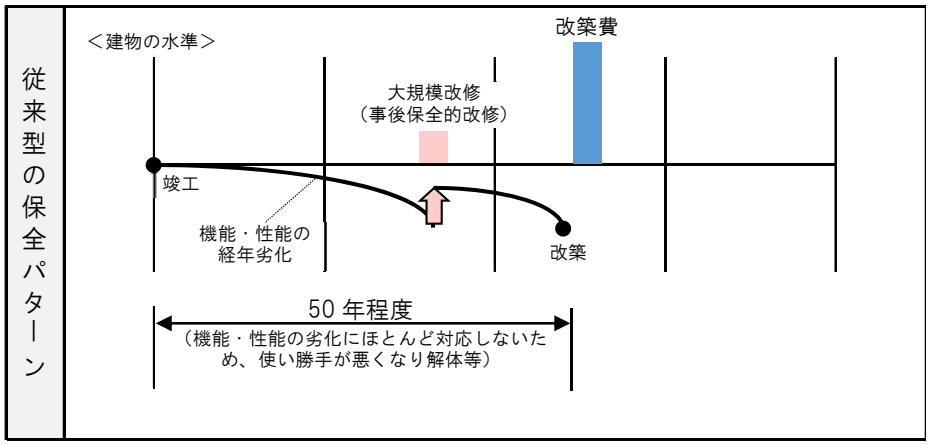
基本方針の実現に向け従来の改築を基本とする施設の更新から、長寿命化等により使用年数の長期化を図ります。原則として予防改修は 20 年、長寿命化改修は 40 年と設定します。

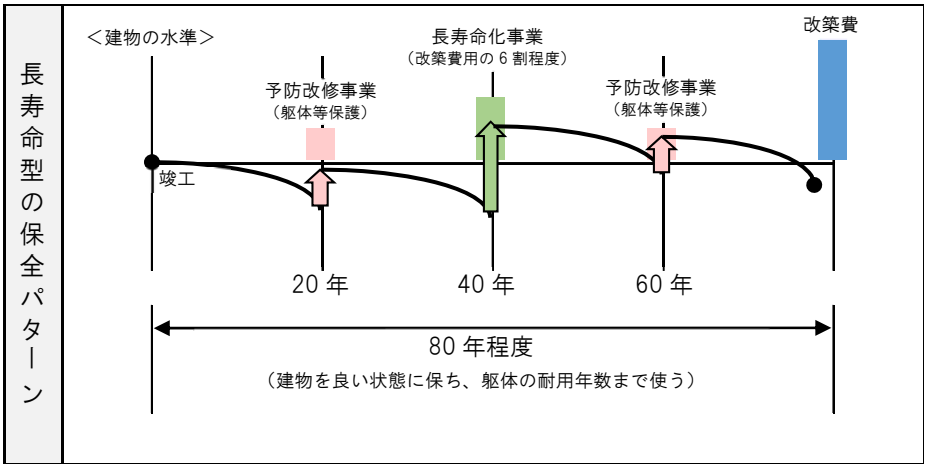
＜施設の使用年数・改修周期等の設定＞

◆使用年数……80 年程度

◆長寿命化事業……40 年程度

◆予防改修事業……20 年程度





＜改修工事の内容＞

個別修繕 （経年劣化部位修繕）	予防改修事業 （躯体等保護改修）	長寿命化事業 （原状回復+機能向上改修）
・個別部位ごとの経年劣化等による躯体への影響予防に資する改修	・建物の長寿命化を図るための予防的な外部改修、部位更新工事	・建物一棟全体（内部・外部共）を長寿命化改良する全面的な改修工事
◆劣化部位毎の個別改修 ・屋上防水改修（部分） ・外壁改修（部分） ・劣化部位修繕 ・故障、不具合修繕、など	◆屋上防水改修（全面） ◆外壁改修（全面） ◆躯体ひび割れ補修、シーリング更新等 ◆外部建具更新 ◆付帯設備更新改修（水道、電気、ｶﾞｽ等）	◆構造区分に応じた躯体の腐食、破損等対策 ◆水道、電気、ガス等のライフラインの更新 ◆耐久性向上、維持管理の容易性の確保 ◆多様な学習への対応

（２）維持管理コストの算定条件

今後の維持・更新コスト（長寿命化型）は、長寿命化のイメージに基づくものであり、建物情報一覧表の試算上の区分（長寿命、改築）により更新周期を設定するとともに、躯体以外の劣化状況（A,B,C,D 評価）を直近の修繕費に反映して算出します。

① コスト試算の考え方

◆築年数に応じた時期に、現状と同じ延べ床面積で改築・改修を行う
◆改修、長寿命化改修は２年に工事費を均等配分、大規模改造は単年度で計上
◆改築及び長寿命化改修の実施年数より古い建物は、今後 10 年以内にそれらを実施するものとし、当該コストの 10 分の 1 の金額を 10 年間計上
◆長寿命化改修の実施が可能かどうかを建物毎に判定し、改修周期を設定
① 長寿命化可能な建物（試算上の区分が「長寿命」の建物）は、築 40 年に長寿命化改修、築 20 年、築 60 年に予防改修、築 80 年に改築すると設定
② 長寿命化可能な建物で、基準年時点で築 40 年を超えている建物は、今後 10 年以内に長寿命化改修を実施すると設定
③ 長寿命化改修が実施できない建物（試算上の区分が「要調査」「改築」または未記入の建物）は長寿命化改修を実施せずに改築（改築までは 20 年周期で大規模改造を実施）すると設定
◆今後 5 年以内に D 評価の部位の修繕を、今後 10 年以内に C 評価の部位の修繕を実施すると設定。ただし、改築、長寿命化改修、予防改修を今後 10 年以内に実施する場合を除く
◆今後 10 年間に長寿命化改修を実施する建物は、長寿命化改修費から A 評価の部位修繕相当額を差し引く

② 基準年度

2020 年	試算期間:基準年度の翌年度から 40 年間

③ 維持更新コストの単価設定（円/㎡）

	学校		体育館		給食施設		その他	
改築	100%	310,000	100%	470,000	100%	710,000	100%	240,000
長寿命化改修	60%	190,000	60%	280,000	60%	430,000	60%	140,000
予防改修	25%	80,000	25%	120,000	25%	180,000	25%	60,000

※単価は本町及び近隣町村における直近の施設建設費から設定。長寿命化改修、予防改修の単価算定比率は、学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書（文部科学省）P37 を引用

④ コスト試算条件

	従来型		長寿命化型		備考
	周期	工事期間	周期	工事期間	
改築	50 年	2 年	80 年	2 年	※実施年数より古い建物の改築を 10 年以内に実施
長寿命化改修	－	－	40 年	2 年	※実施年数より古い建物の改築を 10 年以内に実施
予防改修	20 年	1 年	20 年	1 年	※改築、長寿命化改修の前後 10 年間は実施しない

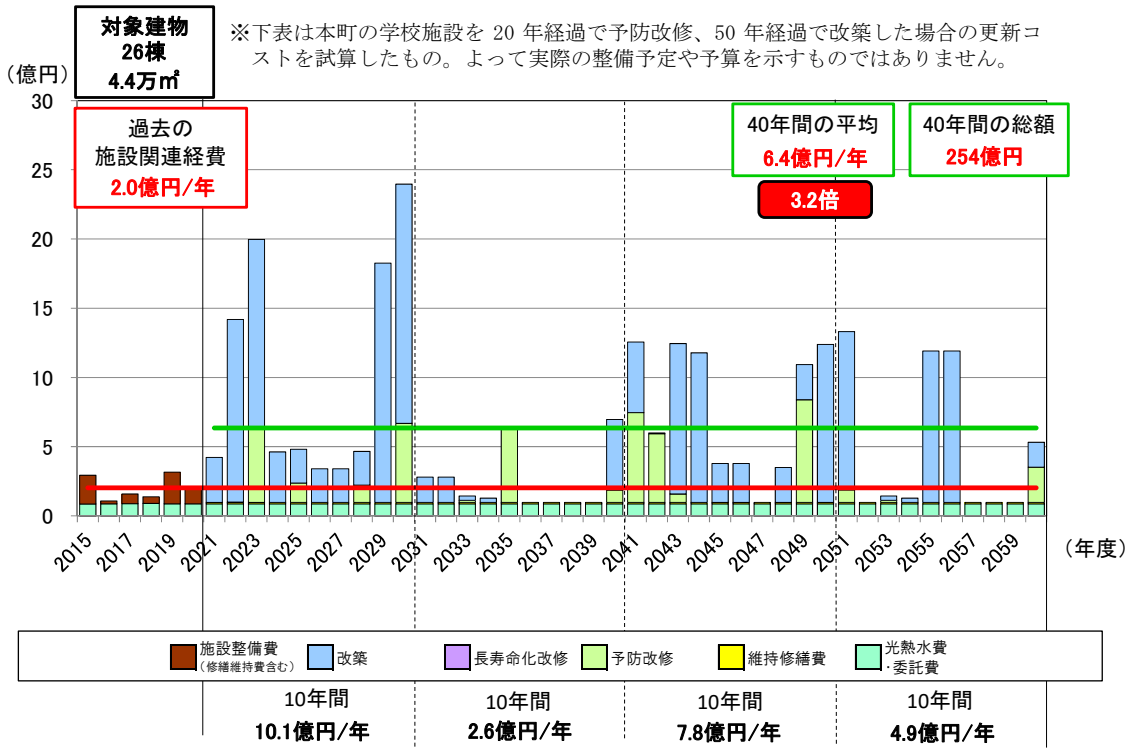
⑤ 部位修繕

評価	試算条件	
D 評価	今後 5 年以内に部位修繕を実施	ただし、改築･長寿命化改修･予防改修を今後 10 年以内に実施する場合は除く
C 評価	今後 10 年以内に部位修繕を実施	
A 評価	今後 10 年以内の長寿命化改修から部位修繕相当額を差し引く	

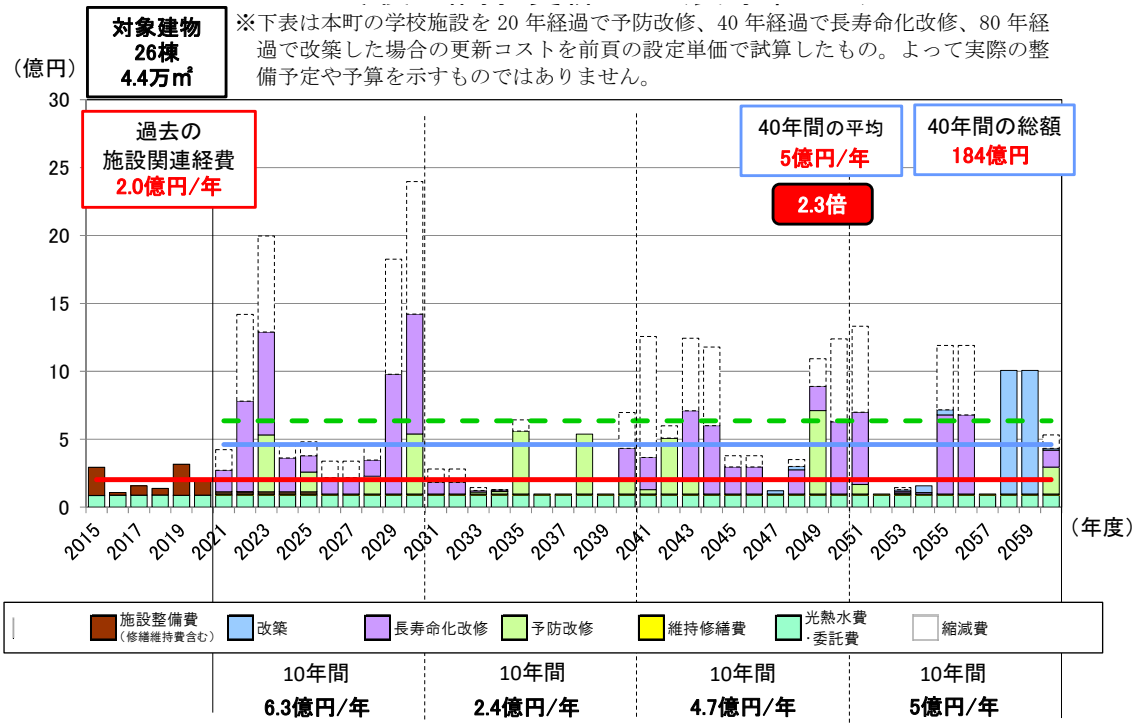
（３）長寿命化によるコスト試算の比較と検証

長寿命化改修等により、施設の更新周期を 50 年から 80 年に伸ばした場合の維持更新コストの試算は以下となります。40 年間の総額で約 70 億程度のコスト削減が見込めます。

＜今後の維持・更新コストの試算（従来型）＞



＜今後の維持・更新コスト（長寿命化型）＞



５　基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等

（１）改修等の整備水準

本町では、前述の基本的な方針で示したように、施設の安全性の確保及び財政負担の軽減・平準化の観点から、適切な時期に長寿命化改修を実施し、目標使用年数を概ね 80 年とした施設の長寿命化を図ります。

長寿命化改修では、単に物理的な不具合を直すのみでなく、ライフラインの更新等により建物の耐久性を向上させるとともに、建物の機能や性能を現在の学校が求めている水準まで引き上げることを目指します。

（２）建物の耐久性の向上

今後の改修にあたっては、ライフサイクルコストの向上や建物のエネルギー効率の向上、環境負荷の低減等の観点を取り入れて、下記の考え方で耐久性の向上を図ります。

図表　改修等の整備水準

部位	耐久性の向上策
屋根・屋上	◇屋根・屋上においては、躯体や建物内部への漏水を防止し、建物の劣化を押えるため、適正時期での屋根や、屋上防水の防水材更新を全面的に行います。 ◇屋根の更新については、ガルバリウム鋼板等の耐久性の高い素材での更新や、耐久性や遮熱性の高い塗装による改修や修繕を行います。 ◇屋上防水の防水材については、既存の防水仕様や今後の供用年数等を考慮し、塗膜防水、シート防水及びアスファルト防水等の中から、最も費用対効果の高いものを選定します。
外　壁	◇外壁については、ひび割れ、浮き及び剥落等の劣化を未然に防止するため、各対象建物の状況に応じ、壁面材で部分的又は全面的に被覆し、躯体の劣化現象の進行を遅らせます。 ◇壁面材の材料は、既存仕様及びその他断熱性能を勘案の上、耐候性の高い塗膜仕上げやモルタル補修の他、板金や金属系サイディング等の耐久性の高い素材での被覆等、最も費用対効果の高いものを選定します。
電気設備 機械設備	◇設備機器の老朽化対策では、日常点検、消耗部品の定期交換によって故障を未然に防ぐとともに、必要に応じて物理的耐用年数の長い機器を選定します。また、設備配管の老朽対策では、更新工法等、今後のメンテナンスの容易さや、供用年数の見通し等を勘案し、最も費用対効果の高い対策工法を選定します。

（３）維持管理の項目・手法等

長寿命化を図るためには、定期的な改修工事を行うだけでなく日常的、定期的に施設の点検や、清掃、情報管理を行う必要があります。日常的、定期的に維持管理を行うことで建物の劣化状況を詳細に把握でき、より早急に異常に気付くことができるため、施設に応じた維持、改修内容や時期を計画に反映することができます。

図表　維持管理の項目・手法等

維持管理分類	項目	内容	頻度	主な担当
日常的な点検	清掃	快適な環境を維持しながら建物の仕上材や機器の寿命を延ばすため、塵や汚れを除去する	毎日	施設管理者
	日常点検	機器及び設備について、異常の有無、兆候を発見する。	毎日	施設管理者
定期的な点検	自主点検	機器及び設備の破損、腐食状況を把握し、修理・修繕等の保全計画を立てる	周期を設定	施設管理者 施設設置者
	法定点検	自主点検では確認できない箇所や法的に定められた箇所に関して、専門業者により点検する。	周期を設定	専門業者
臨時点検	臨時点検	日常、定期点検以外に行う臨時的な点検	故障時等随時実施	施設管理者 施設設置者 専門業者
情報管理	施設台帳の整備	点検・工事の履歴を作成し、各施設の現状把握や計画への反映に活用する。	各点検、改修、修繕後に実施	施設設置者

※施設管理者は主に各学校職員等、施設設置者は主に中標津町役場（教育委員会）等

第４章　長寿命化の実施計画

１　改修等の優先順位づけと実施計画

（１）改修等の優先順位づけ

改修等の優先順位については、施設の築年数や劣化状況評価を基本として、改築の必要性、予算の平準化、長寿命化改修の効率性等を総合的に勘案し決定します。

下表は改修等の優先順位をグループとしたものですが、最も優先順位の高いグループ1については、昭和53年に整備し築後40年が経過し、劣化箇所も多数見受けられることから、計画期間前期に長寿命化等の改修を実施します。

グループ2に属する施設については、広陵中学校に次いで築年数が経過した施設グループであり、建築はもとより設備の老朽化が顕著であることから、長寿命化等の改修、もしくは改築を検討します。

その他、グループ 3～5 の施設については、築年数や改修等の実施経過年数により、概ね下表の時期に適正な改修を設定します。

なお、具体の実施計画については、上位計画である公共施設等総合管理計画等の方針を踏まえ、改修、統廃合等の活用方針を再度検討するとともに、財政状況を十分に考慮し効率化に努め、毎年度の予算編成と合わせて検討していくこととします。

優先順位	対応方針	対象施設
ｸﾞﾙｰﾌﾟ 1 (1965-80)	◇計画期間前期に長寿命化改修を実施	①広陵中学校
ｸﾞﾙｰﾌﾟ 2 (1981-90)	◇概ね 10 年以内に長寿命化等の改修もしくは改築等の検討および実施	②丸山小学校 ③中標津小学校 ④計根別幼稚園 ⑤中標津町学校給食センター
ｸﾞﾙｰﾌﾟ 3 (1991-00)	◇概ね 10～15 年以内に予防改修等の実施	⑥北海道中標津農業高等学校（校舎）
ｸﾞﾙｰﾌﾟ 4 (2001-10)	◇概ね 20 年以内に予防改修等の実施	⑦中標津東小学校 ⑧中標津中学校
ｸﾞﾙｰﾌﾟ 5 (2011-20)	◇良好な施設の維持に向け、適切な時期での予防改修、長寿命化改修等の実施	⑨計根別学園 ⑥北海道中標津農業高等学校（体育館）

（２）学校施設毎の評価

改修等の事業検討に向けた留意事項として、施設毎の現状評価を整理します。

① 広陵中学校（グループ１）

項目	評価等
特　徴	・本町の学校施設で最も築年数が経過 ・片廊下型の典型的な学校で、これまで大規模な改修は実施されておらず、現代学校のスタンダードと比較し各機能に劣る ・長寿命化改修時に施設全体の機能改善が求められる
劣化状況	・築年数による評価や現地調査においても施設全体の老朽化は著しい
トイレ	・施設の特徴からトイレは集中型で配置 ・バリアフリートイレが整備されていない ・生徒用のトイレの様式化率は 43.5%で、生活スタイルや感染症予防においても早急に洋式化が求められる
バリアフリー	・バリアフリー機能未対応
躯体長寿命化	・耐震診断時に躯体調査実施済み、屋内運動場は耐震診断の結果に基づき耐震改修済（H22）で構造体の安全性が確保されている
学級数の推移	・推計値では、2 学級編成の学年が多くなる傾向が見られるが、将来的に中学校教育においても少人数学習の導入を考慮したい

② 丸山小学校（グループ 2）

項目	評価等
特　徴	・片廊下型の典型的な学校で衛生設備や熱環境に劣るため、施設規模に対しての光熱水費が高い傾向 ・これまで大規模な改修は実施されておらず、現代学校のスタンダードと比較し各機能に劣る ・急傾斜地崩壊危険箇所に指定されている区域内に立地していることを考慮した計画検討が必要
劣化状況	・経過年数から全体的に老朽化が著しい ・特にアプローチ周り及び電気設備の老朽化が著しい ・機械設備は単純な機能のみ備えているため、老朽化対策と合わせた機能改善が重要
トイレ	・施設の特徴からトイレは集中型で配置 ・１階にバリアフリートイレが整備されていない ・児童用トイレの様式化率は 48.6%で、生活スタイルや感染症予防においても早急に洋式化が求められる
バリアフリー	・EV 未設置 ・既存のスロープ等も老朽化が進んでいる
躯体長寿命化	・新耐震設計施設で、これまで躯体調査は実施されていない、長寿命化改修を実施する場合は事前調査が必要
学級数の推移	・推計値では、小学校の中で最も早く１学級編成が進む

③中標津小学校（グループ 2）

項目	評価等
特　徴	・現在の児童数に対して施設規模が大きい（P18 参照） ・渡り廊下により低学年棟が完全に分離されているため、管理室も分散される ・半オープンスクール形式で、室数が多いため多様な学習環境に順応しやすい ・複雑な平面計画のため気積、外壁面積が大きくエネルギーロスが大きい ・外壁塗膜劣化が著しく外観を損なっている
劣化状況	・外部の劣化が著しく、屋根外壁ともに特殊な材料等が使用されており、修繕には多額の費用が想定される ・電気設備の老朽化が進んでおり、特殊な器具が採用されていることから、設備全般の更新を検討する必要がある ・機械設備の老朽化が著しく、設備全般の更新を検討する必要がある
トイレ	・施設の特徴からトイレは各所に分散配置されている ・1 階にバリアフリートイレが整備されている ・児童用トイレの様式化率は 43.5%で、生活スタイルや感染症予防においても早急な洋式化が望まれる
バリアフリー	・基本的にバリアフリー機能は整備されているが EV 未設置 ・既存のスロープ等も老朽化が進んでいる
躯体長寿命化	・新耐震設計施設で、これまで躯体調査は実施されていない、長寿命化改修を実施する場合は事前調査が必要
学級数の推移	・推計値では、今後も 2 学級編成が継続されるが、1 学級当りの児童数は減少傾向にある

④ 計根別幼稚園（グループ 2）

項目	評価等
特　徴	・本計画の対象施設の中で広陵中学校に次いで築年数が経過 ・建設時から大きな機能改善は実施されておらず各機能に劣る ・老朽化対策と同時に施設全体の機能改善を検討する必要がある
劣化状況	・全体的に老朽化が進んでいるが部位修繕を実施しており機能不全は起きていない
トイレ	・幼児用に和式トイレが 1 台あるが、和式トイレは幼児が自立して使用することが難しく洋式化することが望ましい
バリアフリー	・幼児教育のための小規模施設であり、一般的なパブリック施設に対するバリアフリー対応など一律な整備では無く、施設に即した機能改善が求められる
躯体長寿命化	・新耐震設計施設で、これまで躯体調査は実施されていない、長寿命化改修を実施する場合は事前調査が必要

⑤ 中標津町学校給食センター（グループ 2）

項目	評価等
特　徴	・昭和 58 年に建設された学校共同調理場で、これまで大規模な機能改修を実施していない ・衛生管理基準は遵守しているものの、現代の施設整備基準に対応できていないことから、老朽化対策はもとより施設整備基準に対応した大規模な増改築、若しくは改築が必要 ・現在は避難所指定されていないが、洪水ハザード区域に立地しており増改築等を実施した際には防災上重要な機能を有する施設になることを踏まえ検討する必要がある
劣化状況	・経過年数から全体的に老朽化が進んでいる
躯体 長寿命化	・新耐震設計施設で、これまで躯体調査は実施されていない、長寿命化改修を実施する場合は事前調査が必要
製造能力	・基本的な必要能力は提供食数による

⑥ 北海道中標津農業高等学校（グループ 3）

項目	評価等
特　徴	・産業振興教育を主とした町立高等学校で、複数増改築を行っている ・本校舎以外に別棟の産業振興教育施設が多数ある ・令和 2 年度に屋内運動場を改築
劣化状況	・本校舎は築年数相応の劣化が進んでいるが概ね良好 ・別棟実習室の一部は老朽化が顕著で安全性が確認できないため使用制限している
トイレ	・生徒用トイレの様式化率は 41.7%で、生活スタイルや感染症予防においても早急な洋式化が望まれる
バリア フリー	・バリアフリー機能は整備済み
躯体 長寿命化	・新耐震設計施設で、これまで躯体調査は実施されていない、長寿命化改修を実施する場合は事前調査が必要

⑦ 中標津東小学校（グループ 4）

項目	評価等
特　徴	・現在の児童数に対して施設規模が一番小さい（P18 参照） ・平成 22 年に近代の学校設計のスタンダードである、コンパクトエコスクールをコンセプトに建設されている ・各室は少人数学級に適した大きさで、標準的な 40 人教室よりも一回り小さい
劣化状況	・特に劣化が進んでいる箇所は無く、予防的な修繕と定期的な改修の実施により、施設を維持できる
トイレ	・児童用トイレの様式化率は 65.5%で、生活スタイルや感染症予防においても洋式化が望まれる
バリア フリー	・バリアフリー機能は整備済み
躯体 長寿命化	・新耐震設計施設で、これまで躯体調査は実施されていない、長寿命化改修を実施する場合は事前調査が必要
学級数の 推移	・推計値では、令和 7 年まで 3 学級編成が見込まれるが、その後は 2 学級編成が進む

⑧ 中標津中学校（グループ 4）

項目	評価等
特　徴	・平成 15 年にエコスクールをコンセプトに建設されている ・現代学校に必要な各機能が備えてある
劣化状況	・特に劣化が進んでいる箇所はなく、予防的修繕と定期的な改修により施設を維持できる
トイレ	・生徒用トイレの様式化率は 63.0%だが、生活スタイルや感染症予防においても洋式化が望まれる
バリアフリー	・バリアフリー機能は整備済み
躯体長寿命化	・新耐震設計施設で、これまで躯体調査は実施されていない、長寿命化改修を実施する場合は事前調査が必要
学級数の推移	・推計値では、今後も 3 学級編成が見込まれる

⑨ 計根別学園（グループ 5）

項目	評価等
特　徴	・施設一体型の義務教育学校で児童数に対して施設規模が大きい（P18 参照） ・平成 27 年に建設されており、近代学校の機能が整備されている
劣化状況	・特に劣化が進んでいる箇所はなく、予防的修繕と定期的な改修により施設を維持できる
トイレ	・学童用トイレの様式化率は 81.0%で分散配置しており、洋式トイレ数が充分に確保されている
バリアフリー	・バリアフリー機能は整備済み
躯体長寿命化	・新耐震設計施設で、これまで躯体調査は実施されていない、長寿命化改修を実施する場合は事前調査が必要
学級数の推移	・推計値では、今後もこれまで通り 1 学級編成となるが、学童数は減少傾向

２　長寿命化の継続的運用方針

（１）情報基盤の整備と活用

本計画を推進するにあたり、学校施設の状況や改修履歴などをデータとして蓄積し、適切な時期に更新することが重要となります。

次の情報を適切に管理し、学校施設の状況を把握することで、今後の改修内容や時期を総合的に判断します。

各データは、施設状況に変化が生じた際や、改修、報告などが行われた際に適宜更新するほか、毎年度、更新の有無を含め内容を確認します。

情報基盤	内容等
◇学校施設台帳	・学校施設の基本情報
◇学校施設別営繕履歴	・改修、修繕の履歴（台帳）
◇定期・法定点検報告	・点検時の指摘事項等
◇学校施設実態調査	・学校からの修繕要望等（各年）
◇劣化状況調査結果	・施設の劣化状況及び相対的な老朽度の評価（概ね 5 年更新）

（２）推進体制等の整備

本計画策定後も、学校施設の老朽化は進行し状況は変化していきます。

また、学校施設に求められる機能や水準も変わっていくことが想定されます。

学校施設の整備は本町の公共施設の維持管理費の中でも、多大なウエイトを占めるほか、その役割は教育の場のみならず、地域コミュニティ、災害対応（避難）等も求められます。

よって、これら学校施設の状況を把握し、多岐に渡る役割や性能の維持と課題の解決に向けては、教育委員会はもとより、関係部署との連携は欠かせません。

本計画に基づき、長寿命化を確実に実現するためには、関係部署との連携をより一層図り、推進体制を充実させていきます。

（３）フォローアップ

本計画に基づき、効率的かつ効果的に学校施設整備を進めていくためには、PDCA サイクルを確立することが重要となります。

本計画は、学校施設の改修や建替えの優先順位を設定するものであり、上位関連計画及び総合計画の策定の中で協議、検討を行います。また、事業の進捗状況、情報基盤から得られる老朽化に関する状況・評価などの結果、各学校区の子どもの数等の状況を踏まえた上で、必要に応じ見直しを行います。

PDCA サイクル	
＜PLan＞	①　施設の状況を把握した上で、それを踏まえた整備計画を策定
＜Do＞	②　計画に基づく日常的な維持管理や適切な改修を実施
＜Check＞	③　整備による効果を検証し、整備手法の改善点などを整理
＜Action＞	④　次期計画に反映

資料　中標津町学校施設長寿命化計画・長期管理モデルケース

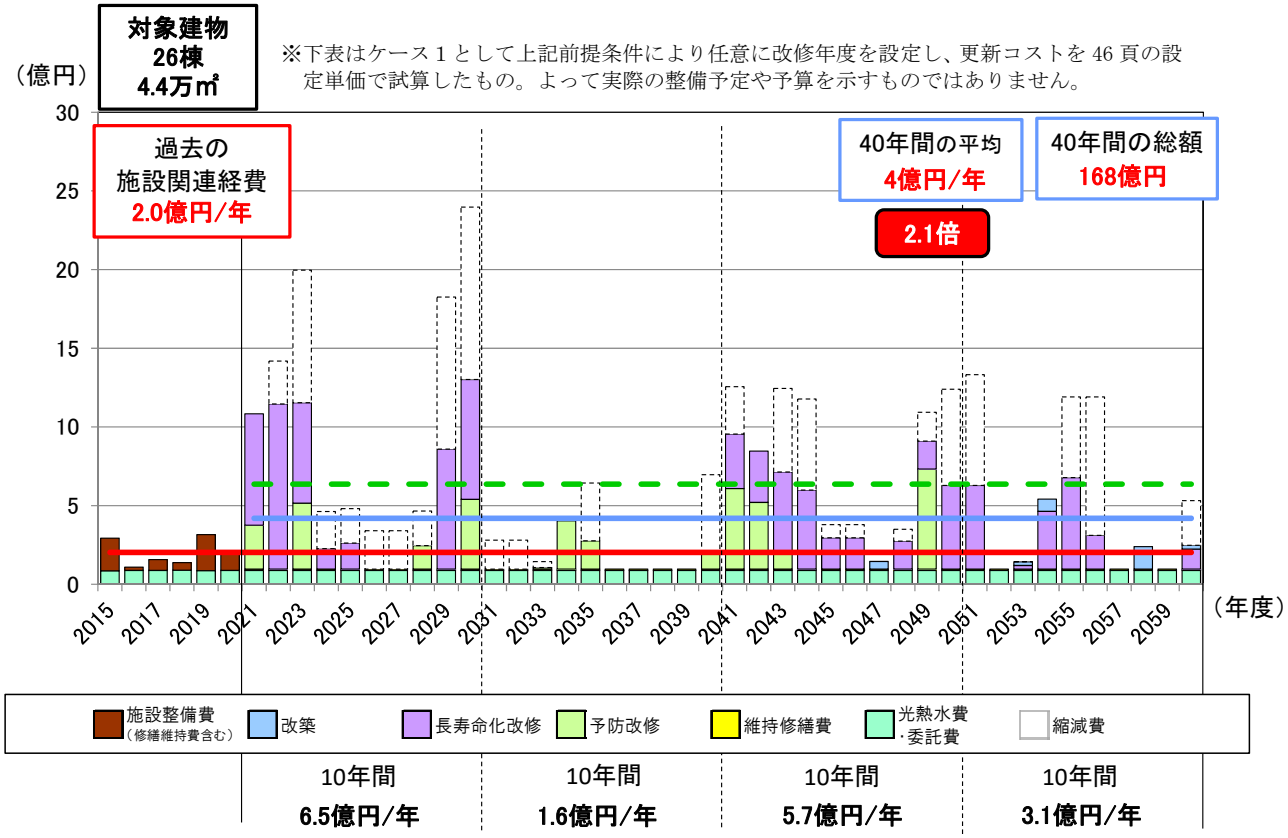
[ケース 1] 全施設 80 年維持管理ルールに準じたケース

＜前提条件＞

・従来型の概ね 50 年での改築に対し、築後 20 年を経過で予防改修、40 年経過で長寿命化改修、60 年経過で予防改修、80 年経過で改築を実施すると想定

・改修年度超過施設は 2021 年に実施を想定

図表　ケース 1 想定コスト



図表　ケース１（80 年維持管理ルールに準じたケース）

種別	学校名		経過期間					計画期間		構想期間					
			1965-80 (S40-55)	1981-90 (S56-H2)	1991-00 (H3-12)	2001-10 (H13-22)	2011-20 (H23-R2)	１期（2021～30） 前期	１期（2021～30） 後期	２期(2031～40) 2031-35	２期(2031～40) 2036-40	３期(2041～50) 2041-45	３期(2041～50) 2046-50	４期(2051～60) 2051-55	４期(2051～60) 2056-60
小学校	中標津小学校	校舎1		H1 建設					長寿命 2029				予防 2049		
		校舎2		H1 建設					長寿命 2029				予防 2049		
		体育館		H1 建設					長寿命 2029				予防 2049		
	中標津東小学校	校舎1				H22建設			予防 2030				長寿命 2050		
		体育館				H20建設			予防 2028				長寿命 2048		
	丸山小学校	校舎1		S57 建設				長寿命 2022				予防 2042			
		体育館		S57 建設				長寿命 2022				予防 2042			
中学校	中標津中学校	校舎1				H15建設		予防 2023				長寿命 2043			
		体育館				H17建設		予防 2025				長寿命 2045			
	広陵中学校	校舎	S53 建設					長寿命 2021				予防 2041			
		体育館	S53 建設					長寿命 2021				予防 2041			
義務教育学校	計根別学園	校舎					H26 建設			予防 2034				長寿命 2054	
		体育館					H27 建設			予防 2035				長寿命 2055	
高等学校	中標津農業高等学校	校舎1			H12 建設			予防 [2020]				長寿命 2041			
		校舎2		H3 建設				予防 [2011]				長寿命 2041			
		体育館					R2 建設				予防 2040				長寿命 2060
		園芸実習室1				H25 建設				予防 2033				長寿命 2053	
		園芸実習室2			H6 建設			予防 [2013]				長寿命 2041			
		園芸実習室3		S55 建設				長寿命 [2020]				予防 2041			改築 2060
		農業機械実習室1	S42 建設					長寿命 [2009]					改築 2047		
		農業機械実習室2	S48 建設					長寿命 [2013]				予防 2043		改築 2053	
		農業機械実習室3	S49 建設					長寿命 [2014]				予防 2041		改築 2054	
		畜産実習室	S53 建設					長寿命 [2018]				予防 2041			改築 2058
		部室				H14 建設		予防 2022				長寿命 2042			
幼稚園	計根別幼稚園	園舎		S56 建設				長寿命 2021				予防 2041			
他	給食センター	給食センター		S58 建設				長寿命 2023				予防 2043			

※表中記載年度は改修想定年度を示す。[　　]は想定年度経過を示す。

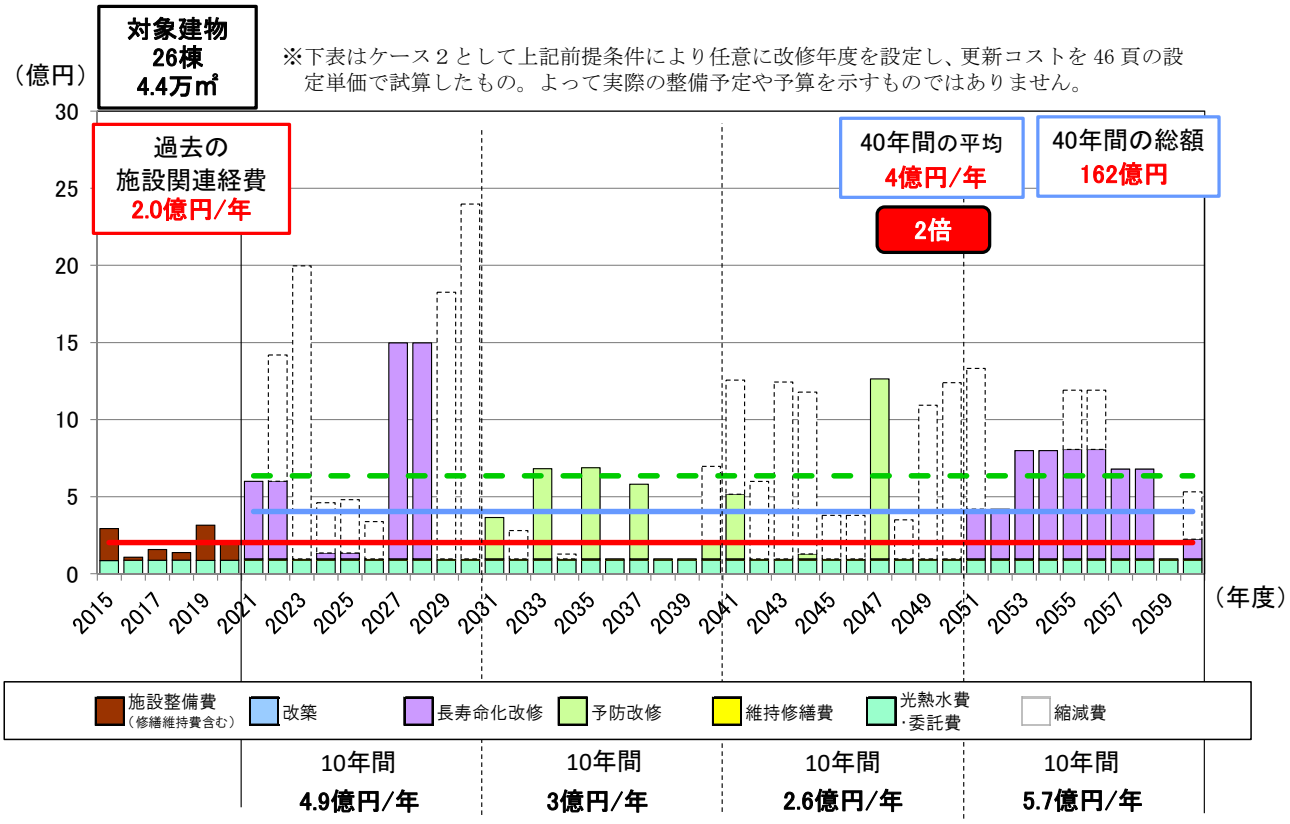
[ケース 2] 優先順位グループを反映したケース

＜前提条件＞

・優先順位グループを反映
・事業の平準化を図る
・北海道中標津農業高校の各種実習室等は適宜修繕対応とし改修経費を計上しない

■グループ１（1 期：計画期間対応）
・計画期間初年度に広陵中学校の長寿命化改修を実施
■グループ２（1 期：計画期間対応）
・計根別幼稚園を、2024 年に長寿命化改修
・中標津小学校、丸山小学校、学校給食センターを 2027 年度に長寿命化改修
■グループ３（2 期：構想期間対応）
・北海道中標津農業高等学校、中標津中学校、中標津東小学校の予防改修

図表　ケース 2 想定コスト



図表　ケース２（優先順位グループを反映したケース）

種別	学校名		経過期間					計画期間		構想期間					
			1965-80	1981-90	1991-00	2001-10	2011-20	１期（2021～30）		２期(2031～40)		３期(2041～50)		４期(2051～60)	
			(S40-55)	(S56-H2)	(H3-12)	(H13-22)	(H23-R2)	前期	後期	2031-35	2036-40	2041-45	2046-50	2051-55	2056-60
小学校	中標津小学校	校舎1		H1 建設					長寿命2027				予防2047		
		校舎2		H1 建設					長寿命2027				予防2047		
		体育館		H1 建設					長寿命2027				予防2047		
	中標津東小学校	校舎1				H22建設			予防2030	予防2035			長寿命2050	長寿命2055	
		体育館				H20建設			予防2030	予防2035			長寿命2050	長寿命2055	
	丸山小学校	校舎1		S57 建設				長寿命2022	長寿命2027			予防2042	予防2047		
		体育館		S57 建設				長寿命2022	長寿命2027			予防2042	予防2047		
中学校	中標津中学校	校舎1				H15建設		予防2023		予防2033		長寿命2043		長寿命2053	
		体育館				H17建設		予防2023		予防2033		長寿命2043		長寿命2053	
	広陵中学校	校舎	S53 建設					長寿命2021				予防2041			
		体育館	S53 建設					長寿命2021				予防2041			
義務教育学校	計根別学園	校舎					H26 建設				予防2037			長寿命2054	長寿命2057
		体育館					H27 建設				予防2037			長寿命2054	長寿命2057
高等学校	中標津農業高等学校	校舎1			H12 建設			予防[2020]		予防2031		長寿命2041		長寿命2051	
		校舎2		H3 建設				予防[2011]		予防2031		長寿命2041		長寿命2051	
		体育館					R2 建設				予防2040				長寿命2060
		園芸実習室1				H25 建設				予防2033				長寿命2053	
		園芸実習室2			H3 建設			予防[2013]				長寿命2041			
		園芸実習室3		S55 建設				長寿命[2020]				予防2041			改築2060
		農業機械実習室1	S42 建設					長寿命[2009]					改築2047		
		農業機械実習室2	S48 建設					長寿命[2013]				予防2043		改築2053	
		農業機械実習室3	S49 建設					長寿命[2014]				予防2041		改築2054	
		畜産実習室	S53 建設					長寿命[2018]				予防2041			改築2058
		部室			H14 建設			予防2022				長寿命2042			
幼稚園	計根別幼稚園	園舎		S56 建設				長寿命2024				予防2044			
他	給食センター	給食センター		S58 建設				長寿命2023	長寿命2027			予防2043	予防2047		

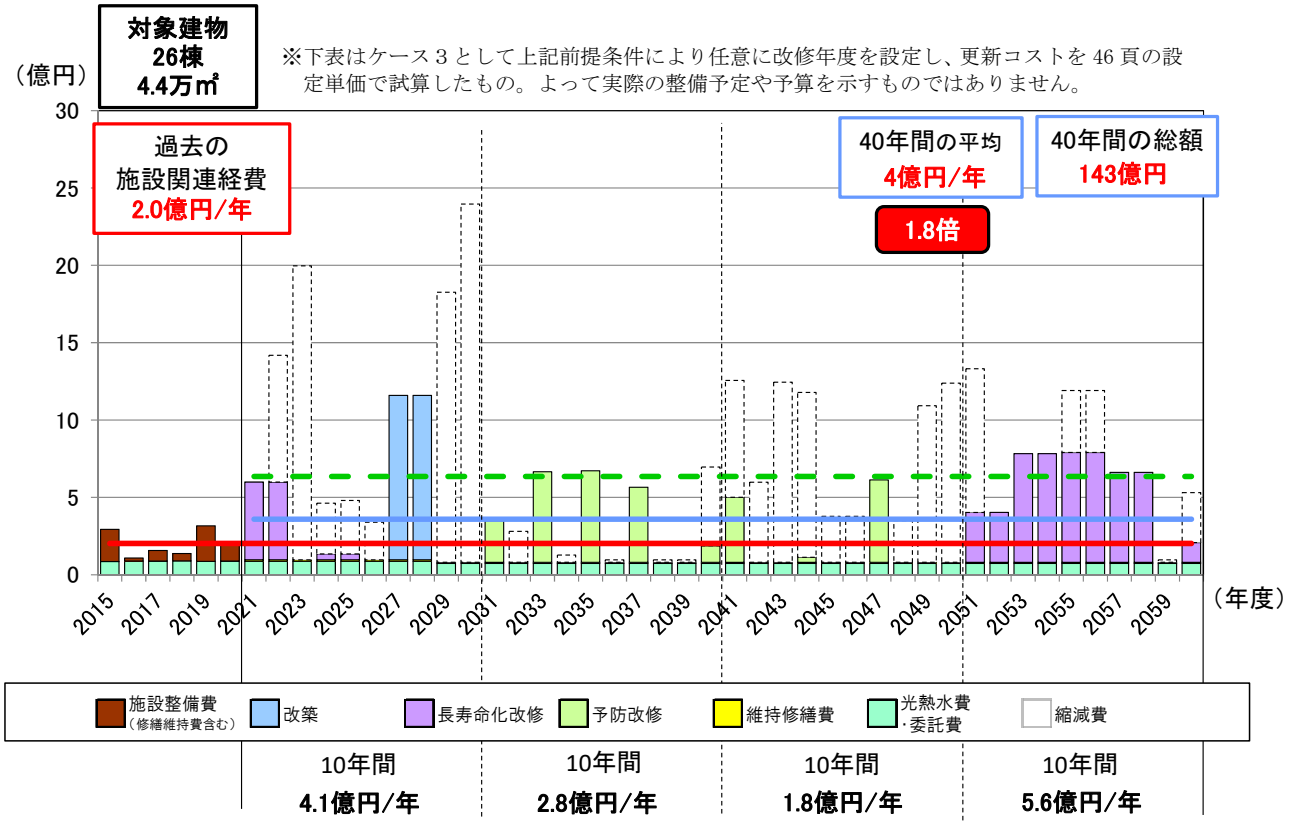
※表中記載年度は改修想定年度を示す。

［ケース 3］ 丸山小、給食センターを改築、中標津小を統合すると仮定したケース

＜前提条件＞

・ケース２で 2027 年に想定した丸山小学校、学校給食センターを合わせて改築（合築）
・中標津小学校を構想期間で丸山小学校と統合すると仮定（※統合後は修繕費、光熱水費、委託費として計上していた年間経費（概ね年 1,500 万）を削除）

図表　ケース３想定コスト



図表　ケース３（丸山小と給食センターを改築、中標津小を構想期間統合したケース）

種別	学校名		経過期間					計画期間		構想期間					
			1965-80 (S40-55)	1981-90 (S56-H2)	1991-00 (H3-12)	2001-10 (H13-22)	2011-20 (H23-R2)	１期（2021～30） 前期	１期（2021～30） 後期	２期(2031～40) 2031-35	２期(2031～40) 2036-40	３期(2041～50) 2041-45	３期(2041～50) 2046-50	４期(2051～60) 2051-55	４期(2051～60) 2056-60
小学校	中標津小学校	校舎1		H1 建設					長寿命 2027	丸山小学校との統合検討			予防 2047		
		校舎2		H1 建設					長寿命 2027				予防 2047		
		体育館		H1 建設					長寿命 2027				予防 2047		
	中標津東小学校	校舎1				H22建設			予防 2030	予防 2035			長寿命 2050	長寿命 2055	
		体育館				H20建設			予防 2030	予防 2035			長寿命 2050	長寿命 2055	
	丸山小学校	校舎1		S57 建設				長寿命 2022	改築 2027			予防 2042	予防 2047		
		体育館		S57 建設				長寿命 2022	改築 2027			予防 2042	予防 2047		
中学校	中標津中学校	校舎1				H15建設		予防 2023		予防 2033		長寿命 2043		長寿命 2053	
		体育館				H17建設		予防 2023		予防 2033		長寿命 2043		長寿命 2053	
	広陵中学校	校舎	S53 建設					長寿命 2021				予防 2041			
		体育館	S53 建設					長寿命 2021				予防 2041			
義務教育学校	計根別学園	校舎					H26 建設				予防 2037			長寿命 2054	長寿命 2057
		体育館					H27 建設				予防 2037			長寿命 2054	長寿命 2057
高等学校	中標津農業高等学校	校舎1			H12 建設			予防 [2020]		予防 2031		長寿命 2041		長寿命 2051	
		校舎2		H3 建設				予防 [2011]		予防 2031		長寿命 2041		長寿命 2051	
		体育館					R2 建設				予防 2040				長寿命 2060
		園芸実習室1					H25 建設			予防 2033				長寿命 2053	
		園芸実習室2			H6 建設			予防 [2013]				長寿命 2041			
		園芸実習室3	S55 建設					長寿命 [2020]				予防 2041			改築 2060
		農業機械実習室1	S42 建設					長寿命 [2009]					改築 2047		
		農業機械実習室2	S48 建設					長寿命 [2013]				予防 2043		改築 2053	
		農業機械実習室3	S49 建設					長寿命 [2014]				予防 2041		改築 2054	
		畜産実習室	S53 建設					長寿命 [2018]				予防 2041			改築 2058
		部室				H14 建設		予防 2022				長寿命 2042			
幼稚園	計根別幼稚園	園舎		S56 建設				長寿命 2024				予防 2044			
他	給食センター	給食センター		S58 建設				長寿命 2023	改築 2027			予防 2043	予防 2047		

※表中記載年度は改修想定年度を示す。